

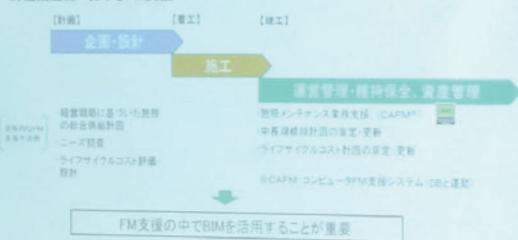
2016年 熊本地震による文化財建造物の被害状況  
函館・都市建築視察ツアー

「建築 100 人展 2016 大学展・浅草展」出展者募集

### 3. 建物施設におけるFM(ファシリティマネジメント)

1) FMとは? 公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会(JPFMA)では、「企業・団体等が保有又は使用する全施設資産及びそれらの利用環境を経営戦略的視点から総合的かつ統合的に企画、管理、活用する経営活動」と定義しています。  
※ファシリティマネジャー資格制度(合格率約40%)

#### 2) 建築物におけるFM支援



東京都議会議員・川井しげお氏講演会レポート  
追悼・高橋勲一先生

濱本卓司教授 最終講演

「旭硝子 鹿島工場」見学会

「丸の内界隈の文化遺産」見学会

「進路ガイダンス 2016」予告

「夏期特別講義」報告

「赤レンガ卒業設計展」レポート

「フレッシューズキャンプ」

「女流ファイル」Part・14

「社会をデザインする先駆者が語る」Part-4

如学会 2016 年度定期総会・講演会・懇親会報告

今年度の如学会は校友会との連携を強め、「開かれた如学会」として、如学会の新たな地平を切り拓くスタートの年と位置づけています。如学会選出の吉田勝校友会会長のもと、このほど如学会の校友会との支援・協力体制を再構成しました。如学会選出の校友会常任幹事に丹羽譲治（如学会副会長、総務局長）、幹事に吉田勝（前出）、丹羽譲治（前出）、酒井孝博（如学会情報委員会主査）、露木博視（如学会副会長、財務委員長）、藤井研一（同・副会長、総務副委員長）の5名で、去る9月13日の常任理事会での報告を経て、スタートいたしました。

如学会の多くの行事は、共催として大学、建築学科、校友会の協力と支援を受け、より一層の内容の充実を図ってまいります。引き続き、皆様のご理解とご指導、ご鞭撻をお願い致します。以下に今年のイベント（実施済みを含む）をお知らせします。

#### ■「定期総会・講演会・懇親会」

2016年6月4日開催（渋谷エクセルホテル東急）約100名参加。東京都議会議長・川井しげお氏（S46・本学土木卒）に「東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて」と題してご講演いただきました。（P3、P26参照）

#### ■「函館・都市建築視察ツアー」

2016年3月26日～28日開催 22名参加。2泊3日で約20ヶ所の新旧の名建築、話題のスポットを精力的に視察しました。（P11-13参照）

## 山岡嘉彌

(S46卒)

如学会会長

### 如学会の活動報告



#### ■「進路ガイダンス準備会／職域理事会」

2016年8月31日開催 約50名参加。斎藤公彦客員教授（建築・S43卒）が「産学官連携」に関する講演。参加企業に11月の進路ガイダンスに向けて、意見を伺う良い機会となりました。

#### ■「進路支援プログラム／進路ガイダンス」

2016年11月23日（水・祝）開催予定 4回目となる今年も多くのOB・OGによる学生への熱心な進路指導と懇親の場となる予定です。（P10参照）

#### ■第11回「建築100人展2016・大学展／上野浅草展（巡回展）」

大学展：2016年10月29日～30日  
巡回展：2016年12月1日～12日開催予定  
今年は台東区後援により、浅草観光文化センターと隅田リバーサイドギャラリーにて巡回展が可能となりました。これに合わせての建築学科在校生2～3年生を中心とした3研究会が各々、上野と浅草をテーマとして研究発表をするべく頑張っています。100名を超すOB、OGと在校生との競演の場となります。（P14-15、P28参照）

#### ■第11回「夏期特別講義」（如学会寄付講座）

2016年8月1日～5日  
18名のOB、OGの特別講師が20講座をつとめた。酷暑の中、熱心な講師の先生方と真摯に学ぼうとする約100名の学生達の姿が印象的でした。全講座とも終了後に即日レポート提出を義務付けられている厳しいプログラムとなっています。（P16-19参照）

#### ■第5回技術見学会「旭ガラス鹿島工場」見学

2016年7月22日  
16名の参加者で最先端の様々な種類のガラス製造過程を見学しました。（P8参照）

#### ■堀場研により新校舎設計中

本学では世田谷キャンパスA地区の東側に約5000㎡の校地(C地区と呼んでいます。)を取得しました。現在、建築学科堀場研究室により、この校地に新校舎の計画・設計が進行中です。新校舎は世田谷キャンパス6号館の実験室・研究室等を移転することを中心としたプログラムとなっており、平成30年4月竣工を目指しています。学生たちによるスタディ模型も作られており、完成が楽しみです。ご期待ください。

#### ■アーカイブ試行中

2016年度前期より、建築学科オリジナルWEBにより建築学科の優秀設計作品を公開しています。このWEB掲載する優秀設計作品の選考は、設計授業による評価が優秀で、担当教員より建築学科の優秀建築作品として選定されたものです。通称『アーカイブ作品』と呼んでおり、建築学科を代表する設計課題作品です。「建築学科オリジナルWEB—在学生の活動—建築作品紹介」でご覧いただけます。まだ試行中で、すべての作品が掲載されているわけではありませんが、建築学科が選定した『アーカイブ作品』であることは間違いありません。是非ご覧ください。

#### ■高等専門学校編入学試験

今年度の入試から高等専門学校建築学科5年生が対象で、本学建築学科3年次編入推薦入試が始まります。従来までは科目を課す編入試験はあったのですが、高等専門学校建築学科を対象とした推薦入試は初めてです。

## 勝又英明

(S55卒)

東京都市大学  
建築学科主任教授

### 建築学科の近況



もう一つ転学部転学科試験が始まりました。これは本学の他学部学科からの2年次編入試験で他学部では現1年生が来年4月に建築学科2年生に、他学部では現2年生が建築学科2年に転科転学部してきます。いろいろなキャリアの学生が集まってきます。在学生の刺激になることと、建築学科の活性化につながることを期待しています。

#### ■BIM教育継続

本学建築学科のCAD・CG教育についてです。本学では、学部1年生で2次元CAD教育(Auto Cadを使用)を、学部3年生でCG・3次元モデリング(Rhinocerosを使用)の教育を行っています。大型の3Dプリンター、レーザーカッターも備えられています。学部2年後期以降は、ほとんどの学生がCADを使用して設計演習の授業課題の作成を行っています。さらに正規の授業ではありませんが、昨年度よりBIM教育を開始しました。本学ではBIMソフトとしてRevitが(無償で)提供されています。このソフトも用いて、昨年度に引き続き、本年度後期に専門のインストラクターによる集中講習を行います。BIMを体験する学生が増えることにより、設計課題への活用や就職などへの好影響が期待できます。本年度8月の特別講義(1)建築の実務(如学会寄付講座)でも「BIMの日」を設けていただき、4人の卒業生に講義をしていただきました。建築学科ではますますCAD・CG・BIM教育が充実しています。学生たちのBIMへの関心も強まっており、成果を是非ご期待ください。

## TOPICS

川井 しげお氏

1947年生まれ、東京都出身。71年武蔵工業大学（現・東京都市大学）土木工学科卒、79年中野区議会議員初当選、97年東京都議会議員初当選、2009年東京都議会自由民主党幹事長、12年東京都議会オリンピック・パラリンピック招致議員連盟会長、13年東京都議会議員5期連続当選、東京都議会オリンピック・パラリンピックを成功させる議員連盟会長、東京都議会第47代都議会議長。



川井しげお氏による講演

## 如学会講演会

於：渋谷エクセルホテル東急

講演

## 川井しげお氏

東京都議会議長

## 「東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて」

6月4日、渋谷エクセルホテル東急（東京・渋谷）で開かれた2016年度定期総会の後、東京都議会の議長を務める川井しげお氏（S46土木卒）が、「2020東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて」をテーマに講演した。招致活動から五輪に関わる川井氏は「起爆剤がないと東京の街づくりができない。五輪が最後のチャンスになる」と強調。その上で、「2020年は単なる一里塚。50年、100年先に若い人の夢の場所となるレガシー（遺産）を築き、残していきたい」と力を込めた。

川井氏は前回（1964年）の東京五輪に向けた街づくりを振り返り、「（開催まで）時間がないうち、新幹線や首都高などのインフラを急いで

整備した。結果として日本橋を覆ってしまったことは反省材料だが、その後の高度成長、経済発展に大きな役割を果たした」と指摘。さらに「当時のレガシーがきちんと残っており、私たちはまだにその恩恵を受けている。今度の五輪でもそういうものを次の世代に残していきたい」と、五輪関連の施設・インフラ整備に対する思いを明かした。

2040年代の東京の姿を描きながら、施設整備を進めているとも主張。特にパラリンピックの重要性に触れ、「都内に障害者の皆さんがスポーツをする場所がほとんどないのが実情だ。スポーツは社会参加の大きなきっかけとなる」と強調。五輪に向けた街づくりを通じて「障害者の方々のごでもスポーツのできる東京をつ

## 「若い人の夢の舞台、誰にでも優しい街つくる」

——— レポート ● 山口裕照 (H10卒)  
日刊建設工業新聞社

くっていく。心を含めたバリアフリーが大事。誰にでも優しい街、優しく感じられる街にしたい」と訴えた。東京の街をデザインするのは建築家の手に掛かっていると述べ、「いろんなアイデアや知恵を発表してもらえればありがたい」と呼び掛けた。

2019年にはラグビーのワールドカップ（W杯）が開催される。川井氏は「世界3大スポーツイベント（五輪・サッカーW杯・ラグビーW杯）のうち、二つが東京で行われる。こんなチャンスはない」と力説。国際的な都市間競争の中で日本（東京）の国際競争力が弱まっている現状を踏まえ、「二つのスポーツイベントを利用して世界一の都市をつくる。インフラなどのハード面だけでなく、環境や福祉、医療などあらゆる面で一番を目指していきたい」との考えを示した。

「新規恒久施設の施設運営計画」（中間まとめ）を解説しながら、「新たに恒久的につくる施設は、競技スポーツに加え、都民のスポーツ利用や文化・レジャー活動、青少年教育の場として多目的に活用していくことが基本。施設周辺との連携を図ることでさまざまな人々が集い、交流が生まれ、にぎわいの拠点となる。そんな広がりのあるレガシーを形成していく」との思いを披露。仮設で計画されている「お台場海浜公

園（トライアスロンなど）や「潮風公園」（ビーチバレーボール）などを紹介し、「壊さずに恒久的に利用できるようにしたい。その方法について投げ掛けているところだ」と述べた。

東京都が抱える課題について川井氏は「東京一人勝ち論」を挙げた。「国が東京対地方という構図をつくった。五輪を機にこれを変えたい」と訴え、「全国各地に眠っている技術や文化を掘り起こし、五輪を利用して世界に発信していきたい。都はそのパイプ役になる」と強調。各地に眠る優れた技術や製品を見つけることのできるようなシステムの構築を模索していることを明かした。

政府は訪日外国人旅行者（インバウンド）を2020年・4000万人（15年・約2000万人）という目標を掲げており、ラグビーW杯や東京五輪の開催中、多くのインバウンドが日本国内を観光すると予測されている。川井氏は「国内の観光ルートをもっとつくり、観光立国としての幅を出さなくてはいけない。そのために街づくりが大事になる」と主張し、「複数言語や音声のでる案内板を街の主要な場所に置かなくては駄目だ。標識も世界標準になっていない。こうした面からも『おもてなし』が大切になる」と語った。

# 特集●2016年熊本地震による文化財建造物の被害状況

## 矢野和之 (S44 卒)

YANO Kazuyuki  
文化財保存計画協会 代表  
日本イコモス国内委員会 事務局長  
東京都市大学大学院 非常勤講師

## 佐々木健 (S63 卒)

SASAKI Takeshi  
ケンアンドスタジオバンガード  
東京都市大学 客員研究員  
博士(工学)

熊本地震 日本イコモス調査報告書、文化財建造物の被害状況と復旧への展望」を発表し、被害状況の報告会を行った。この40頁に及ぶ冊子が2016年熊本地震による文化財建造物被害状況の最初の報告書となり、7月22日の「文化庁2016年熊本地震・文化財ドクター派遣事業中間報告会」でも参加者に配布された。

調査報告書では、三重大学の花里利一教授が、「今回の地震は震源域が浅く、震源域の地震度特性がその位置によって大きく異なり、熊本市内のKNETによる地震動記録によれば周期0.3～0.5秒の短周期成分が卓越し、短周期構造物である組積造建造物に及ぼす影響が大きいに、熊本城の石垣が甚大な被害を受けたと考えられる。」とされ、被害状況の報告として矢野事務局長は、「熊本城」と「大津町と西原村の歴史的建造物」を、私は、熊本城の城下町である「新町・古町の歴史的建造物」をまとめた。下記に、報告書の内容を抜粋する。

### 「熊本城」の被害状況

熊本城の石垣の被災個所は50数か所に達するといわれ、緩みや孕み箇所の面積を含めると、莫大な面積の解体修理となる。特に特徴的な状況が復元櫓や櫓門下の石垣で、隅石のみが残って、平の石垣と裏込めが崩落しているという光景は、今まで目にしたことのないことである。石垣の崩壊原因は地震ではあるが、その中でも様々な要因が考えられ、今後の修理設計を考えると徹底的な調査が必要である。いずれにしても、地質的・地形的要因の他、崩落部分と築石・介石・間込め石など仕様・技法の分析、石垣の築造履歴・修理履歴との相関関係の総合的分析等々が求められる。技術者・技能者をはじめ今後の修理体制の構築と、復旧と安全性、加えて観光を復活させるなど相反するテーマを満足する計画づくりが急がれる。重要文化財建造物は宇土櫓をはじめ13棟であるが、東十八間櫓、北十八間櫓、不開門が石垣の崩壊とともに崩落し、宇土櫓につづく続櫓、二階櫓が倒壊しており、長塀の一部が場内側に転倒している。宇土櫓や他の櫓平屋の多門櫓は壁の上塗りが剥がれるなどの被害が見られるが、詳細な被害把握はこれからである。宇土櫓は、約30年前に筆者が修理を担当したもので、木造5階建てでも倒壊しなかったことに安心したが、1階に昭和2年の修理時(旧陸軍の技師がかかわっていると推定)にアングル使用のブレース補強がされており、修理当時それを外すかどうか議論したが、全解体でなく新たな構造補強が無理であったためそのままにしておいた経過がある。この昔の補強が効いたのかどうかの検証が必要である。

昭和35年に鉄筋コンクリートで再建された大



熊本城宇土櫓(手前)と天守(奥)



江藤家住宅:主屋正面



西原村(布田地区)の集落



社殿の復旧方法を検討



塩胡椒、他(古町,景観形成建造物)



熊本城北十八間櫓の崩落



江藤家住宅:主屋内部



倒壊した拝殿と傾斜した本殿



西村邸(古町,景観重要建造物)



吉田松花堂(新町,景観形成建造物)

小天守は、屋根瓦が落ちて関心を集めたが、構造的なダメージについては発表されていない。今後の天守の修復方針、または木造を含む再建方針はこれからの議論なのであろう。

### 「大津町と西原村の歴史的建造物」の被害状況

熊本地震は布田川断層に沿って大きな被害があった。この中で断層の名前の由来となった布田集落のある西原村と重要文化財江藤家住宅のある大津町の被災について報告する。前震時にはそう大きな被害ではなかったが、本震時に大きな被害を被っている建造物が多い。

#### 大津町

重要文化財江藤家住宅、登録文化財岡本家住宅が存在する他、江戸末から明治期の在地御家人層や富農層の住宅が多く存在している。これらの多くが、程度の差こそあれ被災している。屋根は、ほとんどが目板瓦(熊本独特の棧瓦)で葺土を使用しており瓦は落ちているが、近年、葺き土を使用しない工法で屋根替えの場合は被害がないことが多い。

#### 江藤家住宅(重要文化財)

江藤家住宅は江戸後期の住宅で、主屋、倉、馬屋、長屋門等からなり、平成17年に県指定から国指定となり、今年度から大掛かりな修理の予定であった。前震によって中の蔵の壁が大きく崩れたたが、本震により主屋の屋根瓦の一部が崩れ落ち、煉瓦煙突が崩壊した。

#### 西原村

西原村は本震では震度7を記録しており、布田集落など断層の直上の集落は住宅が崩壊する等の被害が出ている。宮山、小森などは集落全体の被災が甚だしく、断層が動いた地震の怖さを物語っている。ただ被災の程度は集落毎にかなり差があり、地形・地盤など複雑な要因があることが推測される。

#### 矢野家住宅・本宅(国登録有形文化財・明治6年)

矢野家住宅(本宅)は、明治6年の建築で、江戸期の在地御家人の屋敷構えを踏襲しており、平成11年に登録された。主屋、倉、味噌蔵、納屋、表門、裏門、中門の計7棟が登録されている。敷地には激しく3本の亀裂(納屋、主屋、倉)が東西方向に走っており、南北方向に大きく揺れ、南方向に地盤が移動していることが認められる。このため、軸部が礎石などから外れているところも多いが、礎石や土台石と緊結しない伝統工法の方が、倒壊を免れたことは興味深い。

#### 矢野家住宅・新宅(国登録文化財・昭和4年)

新宅は本宅の東隣に位置し、昭和4年に建築されたもので、軸部はほぼ健全である。この建物は、他の伝統的住宅建築に見られるように周りが解放となった耐震要素はないと考えられるが、健全な状態を保つことができたのは、本宅に見られる亀

裂がないこと、指鴨居の多用で軸部がしっかり固定されていたこと、全体に構造的バランスが良かったこと等が考えられる。

#### 神社等

八王社の拝殿は倒壊し、三間社流造の2棟の社殿が倒壊寸前の状況にある。もともと布田集落にあったが、大洪水で被災したためこの地に江戸中期に移転したと伝えられ、彫刻などにみる建築意匠が優秀である。今でも宮山・布田両集落の住民が氏子となっているが、神楽などの祭礼も継承されている。このような未指定でもコミュニティの核として機能し、村史に位置付けられ、建築的にも評価できる歴史的建造物の保存は、今回の大きなテーマといえる。

### 「新町・古町の歴史的建造物」の被害状況

新町・古町は加藤清正がつくった町人町であり、古町は120m四方の基盤の中心に寺院を配する一町一寺の町割が特徴で、廃寺もあるが現在でも25の寺院が町屋等に囲まれている。一方、新町は熊本城から諸国へ通じる四街道の玄関口にあたり、120m×60mと南北に長く、クランクにより見通しが利かない町割が特徴で、西南の役では激戦地となり、町の多くを焼失した。しかし、新町・古町地区では太平洋戦争の空襲による被害は少なく、町割に城下町の面影が今でも残り、一部で昔ながらの佇まいも感じられ観光客も訪れる。

現在、新町・古町地区には熊本市の景観形成建造物全18棟のうち10棟あり、2棟は国登録文化財でもある。歴史的建造物の具体的被害は瓦の落下、土壁や煉瓦の亀裂や剥離を多くの建物で確認し、土蔵等に蟻害の影響もみられた。調査した時点で応急危険度判定は完了しており、緑(調査済)1棟、黄(要注意)2棟、赤(危険)6棟であった。しかし、平成以降に竣工した近隣のマンション等に赤や黄判定がある一方で、今回の対象外にも被害の少ない古い町屋も散見され大震災による影響の低い歴史的建造物から知見を得ることも今後の重要な課題と言える。

#### 長崎次郎書店(国登録文化財、大正13年)

昭和50年に火災で半焼し、その後平成2年に補強改修した事が被害を軽減した可能性として考えられ、破損箇所は土台付近のタイルの剥離程度であった。また、応急危険度判定が緑であったこともあり、1階の書店と2階の喫茶店は通常通りの営業が再開されていた。

#### 西村邸(市景観重要建造物、大正6年)

市景観重要建造物の指定第2号で、現在はカフェとして営業されている。もともと油商だった為、敷地の東西に設けられた煉瓦造の防火壁が特徴だが、独立した煉瓦造の壁を支える為に接続された支えが木造の土壁を大きく崩落させ、その影響が正面にもみられた。

#### 吉田松花堂(市景観形成建造物、明治10年頃)

熊本市の景観形成建造物として最初に指定された6棟のひとつ。毒消丸で知られる薬問屋で城下町を代表する建物でもある。正面の建物は瓦が大きく破損し、赤:倒壊のおそれありと判定されていた。また、外観から判断する限り、側面では棟続きの接続部の損傷が特に激しく、土壁が大きく崩落していた。

#### 塩胡椒/ナチュラル&ハーモニックビューアリー(市景観形成建造物、明治初期)

瓦屋根、軒高、窓の格子等が美しい町並みを形成している。また、屋根葺替え済みの建物では瓦の損傷は少なく、葺替え修理の実施が赤(危険)判定に影響を与えた可能性がある。尚、一部に外装材の浮き等の損傷もみられた。

#### 森本換表具材料店(市景観形成建造物、明治19年)

襖などの和紙を扱う材料店で、店内の棚に和紙や襖紙が置かれ、現在も店先のバッテリー床座を利用して高いが行われている。建物が1/20傾斜し瓦の落下の危険がある為、ロープにより二次被害を防ぐ応急対策が施されていた。

#### 鈴木邸(市景観形成建造物、大正3年頃)

大正始めに建てられた洋館の小児科医院で現在は個人の住宅である。所有者はできれば今後も住み続けたいと考えているが、外部には玄関庇や一部の外壁、装飾レリーフが崩落する等の損傷があり、1階室内では木溜漆喰壁の大半が剥離していた。2階の壁は1階の壁程の損傷はなく、天井にも目立った被害を確認しなかった。建物外部においては、土台との取り合いで柱への蟻害が激しく、今般の地震で沈下した可能性が考えられる。外周部の柱下が同じ状況である可能性もあり、1階室内の木摺壁の崩落との関係が疑われる。

#### 新町・古町の認定町屋制度

熊本市では九州新幹線全線開業に併せ、平成24年度に新町・古町地区にて城下町の風情を感じさせる町並みづくりを目的として、既存の町屋等への修理・維持等に対する助成制度を設け、27年度までに26棟の修景を終えた。

### 所有者の不安と今後

突然の予期せぬ大災害に対して歴史的な建物や町並みをどのように維持していくのか。城が残っても城下町が消えてしまうことへの危機感を自治体はもちろん、多くの方に共有してもらう必要があり、継続的な支援が求められる。現在、現地の方と、新町・古町地区の町屋(約400件)を対象に、研究調査を行っている。東日本大震災後の福島県白河市のように、熊本城の城下町であった歴史的景観が、少しでも次の世代に継承されることを期待している。

(文・写真:佐々木健)

# 追悼 高橋 勲一先生

建築家、大阪芸術大学 名誉教授  
元・武蔵工業大学 助教授  
元・第一工房 代表

秋山邦雄 (S42 卒)  
歴史環境計画研究所



54 T.A.C.  
1959  
龍山荘



大阪芸術大学情報センター  
工事現場にて (1995年)



第一工房にて (2014年12月17日)  
右：高橋先生、左：筆者

本学で、昭和31～41年(1956～66)の間、教鞭をとられた高橋勲一先生が、平成28年(2016)2月25日、91歳にて静かに旅立たれました。心よりご冥福をお祈りいたします。

去る6月30日(木)、池田武邦先生、内田祥哉先生、阪田誠造先生、林昭男先生を発起人とした「高橋勲一さんの思い出を語りあう会」が執り行われ、多数の方々が参列され先生の思い出を語り、追悼されました。先生は大正13年(1924)4月27日、日本統治時代の中華民国青島市にお生まれになり、昭和24年(1949)年に東京大学第二工学部(現・東京大学生産技術研究所)を卒業されました。同年通信省営繕部設計課に入られ昭和31年(1956)まで勤務され、同年より昭和41年(1966)まで本学で教鞭をとられました。その後、大阪芸術大学で平成7年(1995)まで教鞭をとられました。その傍ら、昭和35年(1960)に設計事務所「第一工房」を設立され、数多くの作品を手掛けられました。多くの受賞歴をお持ちになり、亡くなるまで現役を貫かれました。そして、「第一工房」の扉を閉じられましたが、私は先生の主なる4作品を挙げるとすれば、佐賀県立博物館、大阪芸術大学建築群、パークドーム熊本、群馬県立館林美術館ではないかと思っております。

先生との最初の出会いは、今からおよそ50年前になります。私が大学3年の時、先生の計画の授業を受けた時で、白墨を持つ手が左手であったり右手だったり自由奔放に黒板を埋め尽くしていく印象的な講義であったことを覚えております。そして、浪速芸大(現大阪芸術大学)のコンペを取られた後に大学をお辞めになりましたので、大学でお会いすることがありませんでしたが、浪速芸大の模型作りのお手伝いをしに研究室の仲間と一緒に第一工房に通ったことがありましたので、時々お見受けすることはできました。その当時第一工房には大学で講師をされていた林昭男先生もおられ、何もわからない学生ながら事務所の雰囲気にも熱いものを感じたことを今でも覚えております。卒業まであと数か月を残して将来どうするのかと三木詔先生からも呼び出されたことがありまして、たまたま第一工房の所員募集があり入所試験を受けることになりました。真昼の12時に設計課題「相模湖周辺の設計事務所」が出され、翌日の真昼の12時までに提出せよと、時間厳守の鈴木先生の課題を思い出しながら課題に向かったことを思い出します。最後の面接では、先生に「俺の授業ちゃんと出ていたか」と聞かれた時には返答に困りましたが、卒業後も17年間「第一工房」で設計活動を一緒にさせていただき多くのことを学ばせていただきました。

入所後はどの世界でもそうだと思いますが、プロになるためにひたすら図面描きですごされました。実施設計図のペンシルワークに厳しく、1/100立面図作図の時のことですが、原寸で直径10cmの壁槌を正確に

描けと、1mm幅の正確な図を要求されたことがありました。今はコンピュータでこともなげに正確に描け、修正その他は瞬時にできてしまう時代とは全く違う時代でした。いただいた先生直筆のドローイングはコンピュータにはない思い入れを感じる図面で温かみがありますね。「思い出を語りあう会」でいただいた先生のお描きになった龍山荘立面のドローイング(1989年5月11日)は懐かしく拝見いたしました。先生は、特にディテール(納まり)のデザインについてこだわっておられたと言われることがありますが、平・断面計画にも相当のこだわりがあり、時間の許す限り推考されました。「思考は止まるものではない。建物が完成するまで粘り強く考え抜くことだ。」とよく言われたことを記憶しております。

大阪芸術大学の4期工事(スチューデントセンターと放送学科棟)の現場監理に出していただいたのが、25歳でした。まだ建築のことが何にもわからない時でしたので不安ではありましたが、先生は週一ぐらいに現場にいられていました。現場での打合せは厳しいもので、監理を担当する者は全て寸法が頭に入っていないとだめだと、よく怒られました。当時大学の先輩の岩田憲三(S36卒)さんが大成建設の監督としてこられていたのでご指導いただき、助けていただきました。難しい現場でしたが素晴らしいデザインで、完成した時の充実感と感動は今でも記憶しております。

もう一つ先生らしい裏話をするをお許しください。先生は車大好き人間で、大学に来られている頃は独特の形をしたフォルクスワーゲンのカルマンギアに乗っておられ、その後もワーゲンでしたが、ロータリーエンジンが開発されてから、マツダのRX-7に乗っておられました。当時助手席によく乗せていただきましたが、マニュアル車を華麗に運転されていた頃を思い出します。しかし、平成26年の12月に外苑前の事務所に久しぶりに伺った時(上の写真)には、「またフォルクスワーゲンに戻ったぞ」と自慢げにお話いただきましたが、さすがに運転は奥様がされているとお話しくれました。それで安心したのですが、あの車好きの先生が、と一抹の不安をその時抱かざるを得ませんでした。

最後になりますが、「建築」をつくる「楽しみ」と、その「心」を教えてください。先生本当にありがとうございました。

## REPORT

# 2016年度 建築学科新入生 フレッシューズキャンプ

2016.04.07 - 04.08

引率

川口将広 (H27卒/大学院2年・大橋研究室)

戸川真緒 (H27卒/大学院2年・手塚研究室)

鳥居希衣 (H27卒/大学院2年・手塚研究室)



手塚教授による解説 三条市「ステージえんがわ」



命名の通りの「えんがわ」に腰掛けて昼食



「十日町産業文化発信館 いこて」



山岡会長(右)によるホテルでの講演会・左は手塚教授



「森の学校キョロロ」での集合写真

東京都大学では毎年、校友会の支援を受けて、新入生の研修と懇親を兼ねて1泊2日の「フレッシューズキャンプ」を実施しています。

今年度の建築学科では、手塚貴晴教授によるプログラムのもと、新潟県三条市・十日町市に向かい、手塚先生が設計された様々な施設を見学しました。旅行には、卒業生のゲストとして山岡嘉彌如学会会長にもご同行いただき、ホテルの研修会でのスライドを交えたご講演では、新入生が建築学科の歴史を学び、多くの優秀な先輩方の実績を知る貴重な機会となりました。

一連の旅行の様子は、引率として帯同した3人の上級生のレポートでお伝えします。

### ■ 1日目 三条市「ステージえんがわ」

新潟県に到着し、一番初めに三条市にあるまちなか交流広場「ステージえんがわ」を訪れました。「ステージえんがわ」とはJR北三条駅の傍にある、街の人々がいつでも自由に入り出して、食事をしたり、お話をしたり、遊ぶことのできる交流スペースです。

新入生は、建築学科の学生として初めて見る建築に興味津々でした。「軒先」と呼ばれるスペースで手塚先生のお話や、ステージえんがわ内にある食事処「三条スパイス研究所」のディレクションを担当した山倉さんのお話を熱心に聞いていました。その後スパイス研究所の方から、様々なスパイスが効いた食事や飲み物をご馳走になりました。

あいにくの雨でしたが、縁側に並んで食事をとり、新入生同士の交流が深められたようです。また縁側沿いを散歩したり、軒や柱の木を直接触ってみたり、建築を肌で感じる良い機会になったように思います。

### ■ 1日目 十日町町建

十日町に移動し、2班に分かれて、計3カ所の施設を周りました。

最初に原広司氏設計の「越後妻有交流館・キナーレ」を訪れました。見学時間の都合により、館内全体を入館することができませんでしたが、回廊型の屋内をぐるりと一周回るように見学しました。溜池を兼ねた中央の屋外展示スペースの巨大さに皆圧倒されたので

はないでしょうか。

次に内藤廣氏設計の「十日町情報館」を見学しました。ここでは映画「図書館戦争」で使用されたこともあり、新入生が興奮気味に見学していました。スロープで吹抜けの閲覧室を周る構成が珍しく、多くの学生が上下のたまり場から人の動きや過ごし方を見ていました。

最後に「十日町産業文化発信館 いこて」に全員が集まり、手塚先生と施設のレストラン「イニシエ アラタ」の女将さんから、施設がどの様に出来たかの説明を聞きました。実際に空間体験をすることで、土地や気候に配慮された建築であることを学びました。

この頃には、新入生の間でも徐々に仲の良いグループが出来てきて、互いに楽しむ声が聞こえてきました。

### ■ 2日目 松之山周遊

フレッシューズキャンプ2日目は、松之山にある2カ所の建築を巡りました。

1カ所目は「森の学校キョロロ」を訪れました。キョロロは手塚貴晴先生の設計で、地域に生息する生物や自然を収集した博物館と研究を行う施設です。特徴的な外装で、コルテン鋼という錆びを帯びた鉄板で覆われています。有数の豪雪地域に建つこの建築は、その積雪の荷重に耐えるように設計されています。冬場は雪で建物が埋まり、外観からは塔だけが雪上に現れますが、施設内の厚いアクリル窓から雪の断面を見ることが出来ます。訪れたのは4月であったため、少量の雪が残っているだけでしたが、新入生は施設の内外から、塔の展望室からと様々な視点で楽しんでいました。

2カ所目は「まつだい雪国農耕文化村センター」を訪れました。設計はオランダの建築家集団MVRDVです。「越後妻有アトトリエンナーレ2003」の開催に併せてに建築されました。脚が生えたような形態で1階部分はピロティになっており、イベントスペースとして使用されます。館内は赤や緑や青など様々な色の部屋で構成されていたり、部屋すべてが黒板となっている部屋もあったりと、新入生は興味津々で見学していました。見学後は施設の屋外でお弁当を食べて、帰路へとつき、キャンプは終了しました。

## 旭硝子 鹿島工場

2016.7.22 [金]

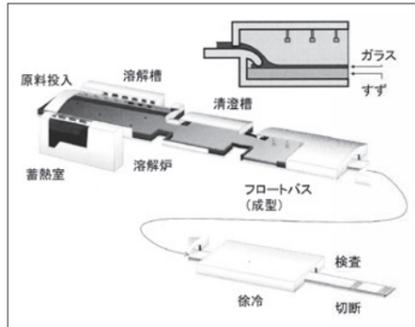
舟岡 努 (S52 卒 / 舟岡技術士事務所)



鹿島工場入口前



工場見学前の説明



フロートガラス製造ライン模式図

工場内は撮影禁止のため、本文にある各種ガラスの製造工程の写真はありません。ご了承ください。

参加者：  
 廣田幸子 (S37)、中村陽一 (S38)、鈴木亨 (S46)、丹羽譲治 (S38)、酒井孝博 (S51)、舟岡努 (S52)、手塚雅仁 (S55)、新野薫 (S55)、露木博視 (S55)、國正玉緒 (H01)、植谷英子 (H14)、櫻井ちど、石川綾、中田剛、小林弘道、藤井保奈美 (敬称略)

第5回となる技術見学会は16名の参加を得て、茨城県鹿島臨海工業地帯にある旭硝子鹿島工場を訪ねた。世界最大規模の板ガラス製造設備を備えており、各種建築用加工ガラスも製造している。まさに日本の建築用ガラス製品製造の最大拠点である。

■世界最大規模のフロート法板ガラス製造設備  
 板ガラスの原材料は、海外から厳選されて輸入され、海上輸送で鹿島工場内の港に陸揚げされる。原材料は約1600℃の熱で溶解される。見学では、この溶解炉内を見ることができた。耐火煉瓦でつくられた炉内でバーナーから噴き出る炎をひとりひとり交代で保護具越しに観察した。見学当日はやや涼しい気候であったが、それでも結構暑い。この時期、高温の炉付近は40℃を大きく超えるとのこと。装置はほとんど無人で稼働しているようだが、見学中、炉の修復をされている方々をお見かけした。真夏の炉付近で作業する姿を想像して、今日は助かったと一同静かに思うのであった。炉は一端稼働すると、計画された大修繕までは止めることをしないとのこと。東北震災の時はどうだったのか気になり、案内いただいている方に尋ねた。炉にも被害があり、それでも稼働を止めることはなく、運転継続と補修を行ったとのこと。この装置1基から、日本で使われる板ガラスの40%が供給されていることを考えると、当時の関係者の緊張感はいかに大きかったかと想像してしまう。

板ガラスにするために、溶解されたガラス原料は溶解炉からつづくフロートバスで錫溶液の上に浮かび、錫面の平滑性を写し取りつつ形を整える。厚みはこの間で流れる速さで調整される。その後、200mにもおよぶ冷却ラインに入る。冷却は徐々に行わないと歪みが残るため、加温調整しつつ温度を下げていく。冷却されたガラスは定められた寸法に切断され搬送用パレットに次々に積まれてゆく。切断しなければ、いくらでも長いガラスができることになるが、積み出しができるのは約13m程度とのこと。ここまで、無人で自動化されていた。

## ■スパッタリング

スパッタリング装置はガラス表面に金属薄膜を生成するもので、省エネに大きく貢献している。Low-E 複層ガラスや熱線反射ガラスに使われている。ここにあるのは、世界最大級の自動スパッタリング装置である。

## ■合わせガラス

ガラスの安全性を高める機能を付与できる合わせ加工。2枚（多層も可能とのこと）のガラスに樹脂シートをはさみ加熱圧着し成形する。中間膜といわれるこの膜は数種類あり用途に応じて使い分けられている。成形される前の膜は白濁していて不透明であったが、成形後は見事に透明になっていた。

## ■複層ガラス

金属製のスペーサーに乾燥剤をいれ、コーナー接合部品で四角形に組み、透湿防止のプチルをつけて、両側にガラスをセットして圧着。ここまで、ひとつのクリーンルームのなかで作業される。小口の封着シールは自動機が施工する。自動化されたラインも他工場にはあるとのことだが、ここでは、大寸法や特殊形状、仕様の製品も製作されるため、手作業をあえてしているとのこと。

## ■強化ガラス

DPG 構法に使われているのが強化ガラス。DPG 構法に使われるガラスは、強化加工前にガラスに孔をあける。このドリルの刃先ツールをみせてもらった。ガラスの両面から同時に孔をあけるのだそうだ。精密な金属部品とはめ合わされる部分なので、さぞかし精度の確保にはご苦労されたのだろうと製造開始時の状況を想像していた。

## ■ガラス知識 Q &amp; A

見学会の段取りにご尽力いただいた旭硝子の大島直文さん (H7 年建築学科卒) への質問コーナーでは、出席された皆様からガラスに関する様々な疑問が投げかけられた。複層ガラスに関するものが多いことが印象的であった。そのほかには、工場での気付きとして、“5S” など工場内にかかげられている安全に関する用語に関するもの、フロートガラスはデザイン面からすると平滑すぎる場合があるとの問いかけから話が広がるなど、たいへん興味深く楽しい時間を過ごすことができた。モノの現場にたつてはじめての気付き、自分一人では考えてもいなかった事柄を、同行された方々のお話や疑問から教えられるなど、今回も有意義な見学会となった。見学会でお世話になった、旭硝子 鹿島工場の皆様に感謝申し上げます。

## 「丸の内界隈の文化遺産」

2016.5.24 [火]

畑 和男 (S31 卒 / NPO 建築・街づくり支援センター副理事長)



三菱一号館庭園にて



KITTE(旧・東京中央郵便局)



三菱一号館

2016年5月24日(火)午前10時、東京駅丸の内側の南口から近い「KITTE」1階ロビーに総勢14名が集まった。この建物はある政治家の発言により解体を免れ道路に面した一部が歴史的建造物として残されたのである。

改めて観察すると柱と梁の白色の部分と開口部のガラス、サッシ部の陰陽のコンビネーションが絶妙で美しい。周辺には数多くの新しい超高層のビルが建設されているが、ガラスとサッシのネガティブなファサードは、この建物の引き立て役に過ぎないともいえるようである。ファサード部分の保存ができたのは幸いだった。設計担当は本邦有数の設計集団(当時通信省)の吉田鉄郎だった。

次に向かったのは三菱一号館(現在は美術館)。レンガを使用した古いビルもメンテナンスが行き届いて美しい。だが私達の興味を引いたのは裏庭である。高価な土地にビルを建てることなく広場には芝生が敷かれ、ヘンリームーア作「腰かける女」像等を配置し、周辺にケヤキ、サクラ、シラカバ等、花と緑の憩いの場を提供している。丸の内に勤めている人たちの憩いの場として活かされていた。

三菱一号館に隣接した丸の内パークビルディングの地下に、本日のメイン・イベントとなるエネルギーセンターがある。そこで丸の内熱供給の藤井研一さん(S57卒)と熊沢知子さんの案内で見学させていただいた。ここは丸の内二丁目地区内オフィスビルの裏舞台に当たる。我々の学生時代には、建物の冷暖房設備は地階に冷暖房設備機械室を設けて各階に冷・温水を送る方式であった。小型のビルの場合、夏は扇風機、冬はストーブで、設

計室ではトレーシングペーパーが扇風に煽られ飛んで困ったものである。時代が急速に進んで行くのを実感した。T定規とトレーシングペーパーの時代は幕を閉じ、パソコンとCAD時代へと変化した。地域冷暖房の時代が意外と早く進んでいくのを目の当たりにした。

丸の内二丁目地区では総てのビルが地域冷暖房設備を採用している。また、丸の内一丁目地区と大手町地区もほとんどのビルが地域冷暖房設備方式を採用。その他、内幸町地区には、千代田線霞ヶ関駅、日比谷線霞ヶ関駅、丸の内線霞ヶ関駅に冷水管を供給している。

地域冷暖房は、熱媒体がプラントと相手ビル間を往復することで行われる。安全性と確実性を考慮して冷水2管、蒸気2管の“4管”方式を採用している。また地域配管の大部分はメンテナンスの容易な洞道内の架空配管方式を採用している。

その後は、日比谷通りを北東に進み東京海上日動ビルの先を右折し、東京銀行協会、日本工業倶楽部会館、新丸の内ビルを経てKITTEに戻り本日の見学会を無事終了した。

なお、今回の見学では、三菱地所設計の山極裕史さん(S59卒)から関係資料を提供していただいた。藤井さん、熊沢さんにもこの誌面をお借りして感謝申し上げる次第である。

参加者：  
 鈴木一 (S27)、畑和男 (S31)、廣田幸子 (S37)、阿部寧 (S38)、若林登喜子 (S38)、小澤紀 (S39)、幸村憲衛 (S40)、齋藤公彦 (S44)、小川貞和 (S46)、丹羽譲治 (S48)、宗正雄、香川富省、木村年男、高橋考 (敬称略)

# 如学会主催「進路支援プログラム 2016」本年も多数の企業、学生参加予定

□実施日時： 2016年11月23日[水]13:00-19:00

□場所： 東京都市大学世田谷キャンパス

□開催の主旨： この企画は「就活に当りOB・OGと学生の皆さんとが本音で語り合う“コミュニケーション”の場」であり、「学生個人々と大学OB・OGとの繋がりを大切にきた大学の精神の表現の場」でもあります。就職を希望する学生の皆さんが、様々な分野に進まれ活躍するOB・OGの方々と直接本音の話ができる場として、第4回目を開催することと致しました。学生の皆さんにとって「幅広い建築の実業社会を知る絶好の機会」であり、また「一人では不安な就職問題について大学OB・OGが親身になって相談に乗ってくれる場」でもあります。是非積極的に参加してください。 ※学生の方は平服でご参加ください。いわゆる「リクルートルック」である必要はありません。

## □実施プログラム (予定)

### 第1部

**業種別仕事紹介 13:00-15:45 5号館1階「小講堂」**  
学科教室の先生から就職の流れ、大学院への進学手順の説明の後、以下の業種についてOB・OGの14人の講師の方々から概略をお話いただけます。

| [業種名]               | [企業名]           | [講演候補者(卒業年)] |
|---------------------|-----------------|--------------|
| 1 官公庁等              | 神奈川県            | 高橋徹 (S56)    |
| 2 アトリエ設計事務所         | 三上建築事務所         | 永井沙知 (H23)   |
| 3 構造設計事務所           | 造研設計            | 三好敏晴 (H10)   |
| 4 組織設計事務所           | 山下設計            | 原田聡 (S60)    |
| 5 総合建設会社 (設計)       | 竹中工務店           | 竹島靖人 (H18)   |
| 6 総合建設会社 (施工)       | 巴コーポレーション       | 皆川宏進 (H07)   |
| 7 環境・設備関連           | 新菱冷熱工業          | 服部輝夫 (S59)   |
| 8 ハウスメーカー           | 三井ホーム           | 吉澤俊幸 (S52)   |
| 9 インテリア・ディスプレイ      | 三越伊勢丹プロパティデザイン  | 平田真人 (H01)   |
| 10 技術・材料関連          | ノザワ             | 泉山一弘 (H06)   |
| 11 鉄道・不動産・ディベロッパー関連 | 森ビル             | 今井美希 (H20)   |
| 12 エネルギー            | 東京ガス            | 鎌田寛人 (S62)   |
| 13 マスメディア・情報関連      | 建築資料研究社/日建教育奉仕会 | 熱田晴一 (S51)   |
| 14 海外留学・海外就職        | ノルウェー           | 野澤碧 (H26)    |

### 第2部

**企業別仕事紹介 16:00-17:30 4号館建築学科棟1階「グランドギャラリー」**  
OB・OGの方々と直接お話をさせていただきます。これは学生の皆さんにとって生の情報を得られる貴重な場となると思います。なお、各ブースはできるだけ多くのOB・OGと交流をいただくために最大10分程度毎の入替制を予定しています。

(五十音順)

|                  |  |
|------------------|--|
| 官公庁等             | 神奈川県、川崎市、京都府、台東区、UR都市機構、横浜市  |
| アトリエ設計事務所        | 三上建築事務所  |
| 構造設計事務所          | 造研設計   |
| 組織設計事務所          | 石本建築事務所、伊藤喜三郎建築研究所、NTTファシリティーズ、観光企画設計社、久米設計、坂倉建築研究所、千代田テクノエース、東急設計コンサルタント、日建設計、  |
| 総合建設会社           | 日本設計、日建ハウジングシステム、松田平田設計、三菱地所設計、安井建築設計事務所、山下設計、安藤ハザマ、大林組、大本組、奥村組、鹿島建設、五洋建設、佐藤工業、清水建設、西武建設、生和コーポレーション、銭高組、大成建設、高松建設、竹中工務店、鉄建建設、東急建設、戸田建設、飛鳥建設、巴コーポレーション、西松建設、長谷工コーポレーション、藤木工務店、フジタ、三井住友建設、若築建設 |
| 環境・設備関連          | 新菱冷熱工業、大気社   |
| ハウスメーカー          | 住友林業ホームテック、積水ハウス、大和ハウス工業、東急ホームズ、長谷川萬治商店、三井ホーム  |
| インテリア・ディスプレイ     | イトーキ、イリア、丹青社、三越伊勢丹プロパティデザイン  |
| 技術・材料関連          | 旭ビルウォール、三晃金属工業、ノザワ   |
| 鉄道・不動産・ディベロッパー関連 | 鈴与三和建物、住友不動産、東急電鉄、ナイス、野村不動産、三菱地所レジデンス、森ビル  |
| エネルギー・情報関連       | 東京ガス、東京電力、トランスコスモス   |
| マスメディア           | NTTデータ、建築画報、建築技術、建築資料研究社、総合資格  |
| 海外留学・海外就職        | 桑原茂、杉本拓海、十河彰、野澤碧   |

### 第3部

**懇親会 17:30-19:00 1号館4階「ラウンジ・オーク」**  
立食形式の懇親会で、参加無料です。第2部でお話しし足りなかったことを更にフランクな形で質疑応答を続けることが出来ます。

お問い合わせ：如学会進路ガイダンス委員会委員長 齊藤博 (S44) Mail: toshibunka@t-lx.co.jp

# 「函館 建築・都市視察ツアー」開催

主催：如学会  
共催：校友会、校友会北海道支部、柏三水会

2016年3月26日[土]-28日[月]2泊3日

## 見学建築物

- 「公立ほこだて未来大学」(山本理頭/山本理頭設計工場)
- 「五稜郭タワー」(清水建設)
- 「函館市中央図書館」(佐田祐一/佐田祐一建築研究所)
- 「函館奉行所」(矢野和之(S44卒)/文化財保存計画協会)
- 「金森レンガ倉庫」(岡田新一/北海道岡田新一設計事務所)
- 「函館ヒストリープラザ」(岡田新一/北海道岡田新一設計事務所)
- 「BAYほこだて」(岡田新一/北海道岡田新一設計事務所)
- 「勝山館跡ガイダンス施設」(広瀬謙二(S17卒)、矢野和之(S44卒)/文化財保存計画協会)
- 「旧相馬邸」(筒井与三郎)
- 「旧イギリス領事館」(開港記念館)
- 「太刀川家住宅店舗」(山本佐之吉)
- 「函館山ロープウェイ展望台」(岡田新一/北海道岡田新一設計事務所)
- 「ホテルラピスタ函館ベイ」(大成建設、インテリア：徳野博子(H09卒)/インテリアプランニングアワード2010優秀賞)
- 「旧笹浪家住宅」、「上国寺本堂」(国指定重要文化財)
- 「開陽丸」
- 「旧中村家住宅」(国指定重要文化財)
- 「天使の聖母トラピストヌ修道院」
- 「旅人の聖堂」(香山壽夫/香山壽夫建築研究所)
- 「灯台の聖母トラピスト大修道院」
- 「カトリック当別教会」(香山壽夫/香山壽夫建築研究所)



## ツアー参加者

|               |       |                 |                |                 |              |
|---------------|-------|-----------------|----------------|-----------------|--------------|
| <b>五島育英会</b>  |       | <b>校友会・柏三水会</b> |                | <b>如学会</b>      |              |
| 渡辺 透 S46 (建築) | 五島育英会 | 有馬 禎男 S37 (土木)  | 有馬測量事務所        | 木幡 裕亮 S32 (建築)  | 元・東京カーテンウォール |
|               |       | 倉方 清 S38 (生機)   | 元・倉方土地家屋調査士事務所 | 大森 康幹 S33 (建築)  | 大森建築事務所      |
|               |       | 関 博 S38 (生機)    | 新星冷蔵工業         | 廣田 幸子 S37 (建築)  | 元・久米設計       |
|               |       | 辻 修 S41 (通信)    | エール電機製作所       | 岡野 美佐男 S41 (建築) | 岡野建築設計事務所    |
|               |       | 吉田 勝 S43 (建築)   | PAO設計          | 鈴木 亨 S46 (建築)   | 鈴木工務店        |
|               |       | 山田 真久 S44 (機械)  | エコープラン         | 山岡 嘉彌 S46 (建築)  | 山岡嘉彌デザイン事務所  |
|               |       | 石田 弥 S45 (電気)   | 利恵産業           | 丹羽 謙治 S48 (建築)  | デザインサークル     |
|               |       |                 |                | 露木 博視 S55 (建築)  | オフィス露木       |
|               |       |                 |                | 大角 幸生 H08 (建築)  | 鹿島建設         |
|               |       | <b>学外</b>       |                |                 |              |
|               |       | 岡野 ミチエ          |                |                 |              |
|               |       | 大澤 方江           | 武蔵工業会館 管理部長    |                 |              |
|               |       | 下斗米 早苗          | 石田弥氏知人         |                 |              |

## はじめに

今回の「函館建築視察ツアー」は、昨年3月に行われた『新幹線の開業日列車に乗り、その都市の建築を見に行く』プロジェクトの第2弾です。今回も山岡会長には新幹線開業日当日の切符入手にご苦労いただき、お陰さまで全員分の切符を手に入れることが出来ました。今回のツアー行程も、3日間で見学地21箇所（注）を廻るという前回に引き続き密度の高いツアーとなりましたが、全行程ガイドさん付の大型バスで移動のため、全員倒れることなく（笑）廻ることが出来ました。ツアー参加者は、五島育英会・建築学科・校友会・柏三水会・如学会・学外と総勢22名です。（内、4名は2日目までの参加）

（注）2箇所参加の方は見学地16箇所。

ツアーの全見学先・訪問先を、順を追って記します。

## 3月26日（土）

1・①東京駅  
東京駅は北海道新幹線開業日とあって、乗客、報道陣、駅員、加えて「鉄ちゃん」でこた返していましたが、「8時20分発はやぶさ5号」（北海道新幹線東京発2番列車）にスムーズに全員無事乗車、新函館北斗駅向けて出発できました。

## 1・②新函館北斗駅

12時22分到着。所要時間は4時間2分です。新函館北斗駅は、2番列車ということもあり、駅はごつたがえしていましたが、昨年の金澤駅ほどのピークの大歓迎ムードではなく、駅づくりも北海道新幹線途中駅という印象を受けました。

ここからは3日間、全て大型貸切バスでの移動となります。

## 1・③「旧世浪家住宅」と「上国寺本堂」（国指定重要文化財）

両建物は勝山館跡の入口（麓付近）にあります。19世紀の前期に建てられた世浪家は、上ノ国で代々鱈（ニシン）漁などを営んできた旧家です。玄閣上部の細工などに鱈漁全盛期の繁栄の様が垣間見れます。また、上国寺本堂は、北海道では最も古い木造の寺で、宝暦7年（1757）（または宝暦8年（1758））の建立です。外観と反して内陣は豪華な造りでした。

## 1・④勝山館跡ガイダンス施設（設計・文化財保存計画協会＋広瀬研究室）

ここでは、上ノ国町教育委員会・塚田様に来ていただき、直々の解説を受けました。勝山館（かつやまだて）は、15世紀後半に築いた山城です。16世紀末頃までは日本

## 如学会研修交流ツアー（共催・校友会、校友会北陸支部、柏三水会）

## 函館の歴史的都市景観と文化財建造物そして最新建築を訪ねる旅

北海道新幹線「東京・函館」開通記念  
超特急「はやぶさ」初乗り体験

で十分食したにも関わらず「大門横丁」へ。皆さん初日の疲れもなく元気でした。

## 3月27日（日）

## 2・①函館朝市・どんぶり横丁

函館の最初の朝は、函館朝市からです。函館駅隣の函館港に面した一角にあります。皆さん、散策がてら朝市に、ついでにどんぶり横丁で海鮮丼の朝食をとりました。

## 2・②箱館奉行所（設計・文化財保存計画協会）

復元設計は、矢野和之氏（S44年卒、文化財保存計画協会代表。平成23年度北海道赤レンガ建築賞を受賞されています。奉行所は幕末に箱館開港と共に建てられた役所ですが、箱館戦争後解体されています。復元した奉行所の凄じところは、遺構と幕末に撮られた古写真、図書館に残る図絵から、瓦の枚数や軒の反りなどを読み取り忠実に復元したことです。更に当時の日本の伝統工法の継承も復元意図としています。

## 2・③五稜郭タワー（設計・清水建設）

タワーは、平成18年に建て替えられ、その形態は五稜星形をモチーフとし、高さ98mで五稜郭全貌を見下ろせます。構造は筒状部分がRC造で、展望スペース及び低層部は鉄骨造です。近くの函館空港による高さ制限により、展望スペースは地上で組み立てられ筒を通してのリフトアップ工事で施工されました。

## 2・④金森倉庫、函館ヒストリープラザ・BAYはこだて

（設計・北海道岡田新一設計事務所）

（屋食・見学）

「金森倉庫」（明治42年頃）は、函館山の麓、函館港の西側に位置しています。この一帯のウォータフロントとあわせ複数の飲食モールが開発されています。「函館ヒストリープラザ」は、金森倉庫の6棟の内5棟を利用して、「BAYはこだて」は日本郵船のレンガ造り倉庫を利用して1988年に再開発されました。その一角に建つ「ホテルヒスタ函館ベイ」は大成建設の設計施工で、インテリアは徳野博子さん（H09卒）の担当でインテリアプランニングアワードの優秀賞を受賞しています。屋食は、徳野さんの設計による中華レストランなど各自バラバラで好みの店に入りました。

## 2・⑤旧相馬邸（設計・筒井与三郎）

函館一の豪商・相馬哲平の本邸として、明治45年に建てられた木造平屋一部2階建ての住宅です。函館一の豪商の邸宅という事もあり、大英帝国の領事館を眼下に見下ろし、函館港を見渡せる眺めは最高でした。建物は、派手さより染み出てるような木造の美を感じました。

## 2・⑥太刀川家住宅店舗（カフェ店）（設計・山本佐之吉）

明治34年に建てられたレンガを積み塗喰を塗った土蔵造り2階建店舗です。1階前面の2本の鑄鉄柱と3連アーチが印象的です。国指定重要文化財にもかかわらず、現在はカフェを営業しています。「物質的な重要文化財としてのSpace」から情緒的な体験の場としてのSpace」というお店のコンセプトを実行中です。その思いが通じてか、人気の観光スポットになっています。皆でお茶・ケーキを楽しみ店主と話しているうちに建築OB会と知ると、奥の階段を昇って普段未公開の2階まで見せていただきました。

この後、2日間参加の方を函館駅まで送り、ホテルに向かいました。

## 2・⑦夕食・懇親会・宿泊

2日目の宿は、湯の川温泉『花びしホテル』です。温泉付きホテルで、夜に朝に温

海側での政治・軍事・北方交易の一大拠点で、最盛期にはかなりの数の住民が郭の中で生活していたと推定され、斜面には無数の火葬、土葬の墓があり、数多くの出土品が現在も発掘されています。本施設内には、200分の1の復元模型があり、窓ガラス越しに現地と見比べることができます。また、発掘調査の出土品の展示の他、建物の地下には勝山館の人の墓が型取りして再現されるなど見せ方に様々な工夫が施されています。

建物は、広瀬鎌二先生（S17卒・元・武蔵工業大学教授。私の恩師と矢野和之氏（S44卒・文化財保存計画協会）の設計で木と鑄鉄を組み合わせた奇棟屋根、高床の平屋建物です。強風や塩害による耐久性等に対応するため「鑄鉄構造」、遺構に影響を少なくするため「掘立柱造」、小屋組、床組は建物重量軽減のため「木造」としています。玄閣の格子や梁などには、鑄鉄ならではの広瀬先生デザインが施されています。

## 1・⑤開陽丸

如学会の視察としては珍しい船の見学です。開陽丸は幕府海軍の旗艦で、幕末に新造されますが倒幕の嵐が吹き荒れるなか、江差沖に座礁し、沈没してしまいました。現在の開陽丸は復元船で固定されており、船内には、海底から引き上げられた大砲・砲弾などが展示され、幕末当時の軍艦の様子が分かります。

## 1・⑥旧中村家住宅（国指定重要文化財）

この建物は、当初見学の予定には入っていませんでしたが、開陽丸に行く途中に見掛け、参加者の要望で急遽見学することになりました。旧中村家住宅は、店舗兼住宅として江戸時代に建てられたもので、外壁や土台などに独特な技法が取り込まれています。内部も当時の商家の帳場の様子が伺えます。

## 1・⑦函館山展望台（設計・北海道岡田新一設計事務所）

函館に来たらやはりこの夜景観賞は必須です。ただ残念なことに、旧中村家住宅に寄つたため時間がなくなり、かつ観光客が非常に多く、ロプウェイで展望台まで昇り、そのまま降りる列に並び、並びながら夜景を観るという状況でした。

## 1・⑧海鮮料理はこだて亭（夕食）

函館に着いて、初めてのちゃんとした食事です。（屋食はバスの中でのお弁当でした。）

お刺身とお鍋でお腹は十分満たされました。

## 1・⑨宿泊・夜の徘徊

ホテルは函館駅前のビジネスホテル「スマイルホテル函館」でした。「はこだて亭」

## 如学会研修交流ツアー（共催・校友会、校友会北陸支部、柏三水会）

## 函館の歴史的都市景観と文化財建造物そして最新建築を訪ねる旅

## 文●露木博視（S55卒）

泉に自由に浸かることができました。懇親会では、校友会・北海道支部の及川浩和氏（建58年卒）が、東京出張の帰りに参加していただきました。及川氏を交えて、校友会・柏三水会の方々と話が盛り上がりました。懇親会が終わった後も部屋での飲み会となり、学生時代に戻ったようでした。及川氏は翌朝、旭川に帰られました。

## 3月28日（月）

## 3・①天使の聖母トラスチヌ修道院

3日目最初の見学は、明治31年に設立された「厳律シトー修道会」に属す日本初の女子修道院『天使の聖母トラスチヌ修道院』です。門を入り、「大天使聖ミカエル像」、「慈しみの聖母マリア像」に迎えられ、一番奥に大正2年に建てられた司祭館と男子禁制の修道院がありました。60名の修道女が生活しているとは思えないくらい静かで尊厳のある建物でした。

## 3・②旅人の聖堂（設計・香山壽夫）

12角形の「旅人の聖堂」は、修道院の敷地内にあります。巡礼の方が静かにお祈りしたり、瞑想のひとときを過ごせるようにと、2001年に建てられました。他の建物に比べたら小さな建物ですが、その形状から存在感がありました。

## 3・③公立はこだて未来大学（設計・山本理顕設計工場）

この建物の「スタジオ」内に入ると12mグリッドに配置されたPC（プレキャストコンクリート）柱とそれが作る大空間に圧倒されます。加えて敷地が市街地に向かって緩やかに傾斜しているため、スタジオからの眺望は雄大なスケールを感じます。ただ心配性の私は、「空調は大丈夫だろうか」、「上から物を投げる不届きな生徒はいないだろうか」、「覗かれていて嫌ではないだろうか」とつい考えてしまいます。大部分PCを使用していると配線等の納まりが気になります。

## 3・④「函太郎五稜郭公園店」（屋食）

ツアー最後の屋食です。ちょっと贅沢にお寿司となりました。地元では有名なお寿司屋さんです。

## 3・⑤灯台の聖母トラスチヌ大修道院

一直線の上り並木道の先にあるのが、「厳律シトー修道会」に属する国内最初の男子修道院「灯台の聖母トラスチヌ大修道院」です。赤レンガでゴシック風のシンメトリー状の美しい建物です。この修道院で製造・販売されている「トラスチヌバターとクッキー」は美味しく有名です。

## 3・⑥カトリック当別教会（設計・香山壽夫）

『灯台の聖母トラスチヌ大修道院』の敷地内に有り、六角形ドーム型で1995年建てられました。円形の高窓がポイントで全体的に可愛い印象を受けました。

## 3・⑦新函館北斗駅

17時21分発 北海道新幹線はやぶさ34号で帰京。東京到着は21時23分。夕食は、新函館北斗駅ではお弁当を買えず、東京まで我慢となりましたが、皆さん缶ビールで酒盛りとなり、車中の4時間が瞬く間に感じるほどでした。

## おわりに

今まで、函館、江差といえば、夜景と五稜郭、海の幸程度しか知りませんでした。が、今回のツアーで、函館の見聞を広めることが出来ました。やはり、実際に見て感じることは大事です。それにしても今回も驚かされたのは、先輩方の元気なことよく歩いて、よく食べて、よく飲んで、敬服です。



1-①東京駅ホーム掲示板



1-②新函館北斗駅



1-③上国寺本堂



1-④-2勝山館跡ガイダンス施設



1-⑥旧中村家住宅



1-⑧海鮮料理はこだて亭



1-①-2東京駅新幹線はやぶさ5号



1-②旧世浪家住宅



1-⑤開陽丸



1-⑦函館山展望台



2-①函館朝市・どんぶり横丁



2-②函館奉行所



2-④-1金森倉庫



2-⑤旧相馬邸



2-⑦懇親会



3-②旅人の聖堂



3-⑤灯台の聖母トラスチヌ大修道院



2-③五稜郭タワー



2-④-2函館ヒストリープラザ



2-⑥太刀川家住宅店舗



3-①トラスチヌ修道院



3-③公立はこだて未来大学



3-⑥カトリック当別教会

主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会  
共催：東京都市大学建築学科、校友会

# 「建築100人展2016・大学展」

## 卒業生100人の社会における活動を紹介します。

開催スケジュール：2016年10月29日[土]-10月30日[日] 会場：建築学科棟(東京都市大学世田谷キャンパス4号館)

| 10/27 [木]   | 28 [金]   | 10/29 [土]   | 10/30 [日]  | 10/31 [月] |
|---|--|---|--|-----------|
| <p>出展作品搬入日<br/>午前中必着</p> <p>●直接の作品持ち込みは、10時-13時を目処にお願い致します。<br/>●郵便・宅配でも受け付け10/27[木]着 厳守 ※着払い不可</p> <p>送付先：<br/>〒158-8557<br/>東京都世田谷区玉堤 1-28-1<br/>東京都市大学建築学科<br/>鈴木浩 宛<br/>090-8052-0945</p> | <p>会場展示作業</p> <p>●大学内への車両の入構は出来ません。お車で搬入される場合は、近隣の有料駐車場をご利用ください。近隣のコンビニエンスストアの駐車場は、ご利用なさらないで下さい。</p> | <p><b>東京都市大学「建築100人展2016・大学展」</b><br/>10:00～18:00 入場無料</p> <p>■「100人展recommendation」<br/>建築家・建築評論家・雑誌編集者などによる100人展へのコメントを募り紹介します。</p> <p>■「設計(2)」学園祭演習課題発表展示(学部2年生)</p> <p>■「学生如学会研究会発表展示1」(学部2年生)</p> <p>■「学生如学会研究会発表展示2」(学部2、3年生)</p> <p>■「学生如学会研究会発表展示3」(学部2、3年生)</p> <p>構造デザイン研究会・デザイン研究会・都市計画研究会による発表展示 テーマ：上野浅草</p> <p>■第6回ホームカミングデーに参加しよう！<br/>2016年10月30日[日] 14:30-<br/>東京都市大学 世田谷キャンパス14号館(さくらセンター)2階<br/>13:00- 学内見学 (希望者) 受付<br/>13:15- 学内見学<br/>14:00- 受付<br/>14:30- 式典・挨拶<br/>15:00-17:00 懇親会</p> <p>卒業後50年 (S41卒)、40年 (S51卒)、30年 (S61卒)、20年 (H08卒)、10年 (H18卒)の方々は9月20日以降にご案内を発送いたしますが、他のどの年度の卒業生の方々も自由にご参加いただけます。</p> | <p>出展作品搬出日<br/>(搬出される方のみ)</p> <p>●「上野浅草展」への巡回を希望されない方は事前にご連絡の上、この日にお引き取り下さい。</p> |           |
| <p>オープンキャンパス</p> <p>TCU祭1日目                      TCU祭2日目                      ホームカミングデー</p>   |  |   |  |           |

「100人展」は、卒業生の様々な仕事の成果の発表の場、自己表現の場であるのみならず、同窓の再会の場であり、お祭りでもあります。他大学に類をみないこのユニークな展覧会に、出展の有無にかかわらずご来場下さい。作品を鑑賞しつつ昔の友人たちと久々の出会いと親睦を深めましょう。旧友をお誘い合わせの上ご来場下さい。

### ■開催日程／大学展

会場：建築学科棟1階グランドギャラリー (製図室)  
展示期間：2016年10月29日[土]-10月30日[日] 10:00-18:00 入場無料  
郵送・宅配：10月27日[木]着 厳守  
搬入・展示：10月28日[金] 搬出：10月31日[月]  
(28日、31日は大学内への車両の入構は出来ません。お車で搬入をされる場合は、近隣の有料駐車場をご利用ください。宅配での搬入、着払いでの返送も受け付けておりますので、お申し付け下さい。宅配の際に返送用の送り状を同梱下さい。)

### ■開催日程／上野浅草展 (巡回展)

●第一会場：浅草観光文化センター7階 展示スペース 東京都台東区雷門 2-18-9  
アクセス 東京メトロ銀座線 浅草駅(出口2)から徒歩1分、東武伊勢崎線 浅草駅より徒歩5分  
都営浅草線 浅草駅(A4出口)より徒歩2分、つくばエクスプレス 浅草駅(A1出口)より徒歩10分  
オープニングパーティ：2016年12月1日[木] 18:00-20:00  
会場：浅草観光文化センター・8階(喫茶室)を予定

●第二会場：隅田公園リバーサイドギャラリー 東京都台東区花川戸 1-1  
アクセス 東京メトロ銀座線 浅草駅(出口5)から徒歩5分、東武伊勢崎線 浅草駅より徒歩5分  
都営浅草線 浅草駅(A5出口)より徒歩5分  
ギャラリートーク：隅田公園リバーサイドギャラリー 会期中に出展者の作品解説があります。日程は、メールマガジン、如学会HPにてお知らせします。

展示期間：2016年12月1日[木]-12月12日[月] 9:00-20:00 入場無料  
搬入：11月29日[木]  
搬出：12月13日[火] 9:00-20:00



「建築100人展2016・大学展・美術館展」ポスター

主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会  
共催：東京都市大学建築学科、校友会  
後援：台東区

# 「建築100人展2016・上野浅草展」

## 「浅草観光文化センター」「隅田公園リバーサイドギャラリー」にて同時開催

開催スケジュール：2016年12月1日[木]-12月12日[月] 第一会場：浅草観光文化センター 第二会場：隅田公園リバーサイドギャラリー

| 11/29 [火]  | 12/1 [木]   | 2 [金] | 3 [土] | 4 [日] | 5 [月] | 6 [火] | 7 [水] | 8 [木] | 9 [金] | 10 [土] | 11 [日]   | 12 [月] | 13 [火] |
|--|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--|--------|--------|
| <p>出展作品搬入日</p> <p>●模型出展希望者は、その旨を申し出の上、自前で搬入して下さい。</p> <p>9:00-20:00<br/>出展作品搬入</p> | <p><b>東京都市大学「建築100人展2016・上野浅草展」</b> 9:00~20:00 入場無料</p> <p>浅草観光文化センター：外観      浅草観光文化センター：8階(喫茶室)      隅田公園リバーサイドギャラリー：入口      隅田公園リバーサイドギャラリー：内観</p> <p>「オープニング・パーティ」会場：浅草観光文化センター・8階(喫茶室)を予定<br/>初日の「オープニングパーティ」には、マスコミ関係、建築家、建築関係者、大学関係者などと理事、顧問など多くの方々をご招待します。<br/>OB・OGの方々、出展の皆様も是非ご参加いただき懇親を深めて下さるようお願いします。</p> |       |       |       |       |       |       |       |       |        | <p>出展作品搬出日</p> <p>●模型出展者は、自前で搬出して下さい。 ※頑丈な箱をご用意頂いた方のみ着払いで郵送いたします。</p> <p>9:00-20:00<br/>出展作品搬出</p> |        |        |

■出展料：7,000円  
(如学会会費未納者は会費+出展料=10,000円)  
※事前納入を原則とさせていただきます。10月20日[木]までに必ずお振込み下さい。  
※振込先 口座名「如学会」ジョウカクカイ みずほ銀行 自由ヶ丘支店 普通口座：1779875  
※出展料は、展覧会運営費・広報費として活用させていただきます。

■展示品郵送・搬入先：〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1  
東京都市大学建築学科4号館2F(鈴木浩 宛) (10月27日[木]着 厳守)

■出展希望・問合せ(連絡先)  
建築100人展実行委員長 舟岡 努  
E-MAIL: 100ninten2016@gmail.com  
※氏名、卒年、所属、連絡先をお知らせ下さい。申込書などをお送りいたします。

■主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会  
■共催：東京都市大学建築学科教室、校友会  
■後援：台東区

### ■出展にあたりご留意いただきたいこと

1. 代表作、新作の出展、絵画、スケッチ、写真など「建築」の分野の作品に限ります。
2. 出展パネルは、「大学展」「上野浅草展」とともにA1サイズを基本とします。大学展ではA1サイズ2枚に限らせて頂きます。上野浅草展は会場が広い(770㎡)ので希望枚数を事前に舟岡まで申告して下さい。多数の卒業生のご出展を歓迎します。
3. 模型は、「大学展」「上野浅草展」とともにご自身の搬入・搬出が原則となります。「大学展」から「上野浅草展」へ転送を希望される方は、舟岡までお知らせ下さい。
4. 「大学展」及び「上野浅草展」の一括開催となります。「上野浅草展」のみの出展は、原則としてお受け致しかねます。「大学展」のみの展示をご希望の場合は、お申し付け下さい。出展された作品は「大学展」終了後、保管・搬送の上「上野浅草展」に展示致します。

「建築100人展2015・大学展」



「建築100人展2015・美術館展」



ギャラリートーク

中村英夫名誉総長も来場

オープニングパーティ

# 東京都市大学 建築学科 2016年度 特別講義「建築の実務」

「第11回 如学会寄付講座」プログラム 2016.8.1[月] - 8.5[金]

会場：世田谷キャンパス 1号館 13M、1BN 教室、3号館 311 教室



教室：1号館13M



教室：1号館13M  
3・4限は3号館311



教室：3号館311



教室：1号館13M  
1限のみ3号館311



教室：1号館1BN

## 1 時限 (13:00~14:10)

日建設計  
**濱田祐也氏** (H18 卒)

2006 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (手塚研究室)  
2009 武蔵工業大学大学院工学研究科建築学専攻修了  
2009 株式会社松田平田設計入社 総合設計室 建築設計部  
2015 株式会社日建設計入社 設計部門 3Dセンター室

[テーマ] BIMによる建築業界の変化と学生に求める力

## 1 時限 (9:30~11:00)

マントルデザイン  
**久保隆文氏** (H11 卒)

1999 武蔵工業大学工学部電気電子工学科卒業  
2001 武蔵工業大学大学院工学研究科電気工学専攻修了  
2001-05 大成建設株式会社  
2006-14 ㈱ライティングプランナーズアソシエーツ  
2014- 照明デザイン事務所 マントルデザイン設立

[テーマ] 建築と〇〇と照明について

## 1 時限 (9:30~11:00)

鉄建建設  
**北野一彦氏** (S54 卒)

1979 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (大須賀研究室)  
1979 鉄建建設株式会社 入社  
この間、9割ほどの時間を鉄道関係の工事に携わる  
現在 鉄建建設株式会社 東京鉄道支店 鉄道生産計画部勤務

[テーマ] 施工会社における生産計画の役割

## 1 時限 (13:00~14:10)

鹿島建設  
**岩崎安孝氏** (S63 卒)

1988 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (宿谷研究室)  
1990 武蔵工業大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了  
1990 鹿島建設(株) 入社  
以来、開発事業本部にて環境影響評価の実施、環境調査・保全計画の策定等に従事  
途中、1994-97 (株)当間高原リゾート 出向  
1998-02 鹿島建設(株)エンジニアリング本部/環境本部 勤務

[テーマ] ゼネコンにおけるデベロッパー部門の役割 (環境コンサル業務担当者の立場から)

## 1 時限 (9:30~11:00)

入江三宅設計事務所  
**川端彩乃氏** (H18 卒)

2006 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (岩崎研究室)  
2008 武蔵工業大学大学院工学研究科建築学専攻修了  
2008 入江三宅設計事務所入社 計画・設計部所属

[テーマ] 組織設計事務所での仕事 再開発事業から住宅まで

## 2 時限 (14:20~15:30)

安井建築設計事務所  
**村松弘治氏** (S57 卒)

1982 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (鈴木研究室)  
1982-87 アトリエ・ドム  
1987-88 西欧・東欧を巡る  
1988- 安井建築設計事務所 設計部長、設計部総括を経て、現在 常務執行役員 東京事務所長 設計本部長

[テーマ] 学生のためのBIM

## 2 時限 (11:15~12:45)

明星大学  
**小笠原岳氏** (H11 卒)

1999 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (松井研究室)  
2001 武蔵工業大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程 修了  
2001 三建設(株) 入社  
2007 武蔵工業大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程 終了  
2007 東洋熱工業 技術研究所勤務  
2008 東京理科大学理工学部建築学科 助教  
2011 明星大学理工学部総合理工科建築学系 助教  
2013- 同 准教授

[テーマ] 建築を「伝える」仕事

## 2 時限 (11:15~12:45)

大和ハウス工業  
**柳生直彦氏** (H04 卒)

1992 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (松井研究室)  
1994 同大学院建築学専攻修士課程修了  
1994 大和ハウス工業株式会社 入社 横浜支店 建築設計課 配属  
2004 東京本社東京都開発部設計グループ 同部 情報開発グループ 勤務  
現在

[テーマ] 住宅業界の現状と展望、住宅メーカーの街づくり

## 2 時限 (14:20~15:30)

東急電鉄  
**打矢潤市氏** (H12 卒)

2000 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (谷口・天野研究室)  
2002 武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻修了  
2002 東京急行電鉄株式会社 入社

[テーマ] 東急電鉄のまちづくり

## 2 時限 (11:15~12:45)

久米設計  
**上田克行氏** (S61 卒)

1986 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (田辺研究室)  
1988 武蔵工業大学大学院工学研究科建築学専攻 建築学専攻 (鈴木研究室)  
1988 株式会社久米設計 入社  
現在 設計本部 建築設計部 統括部長

[テーマ] 建築と環境

## 3 時限 (15:40~16:50)

オフィス露木  
**露木博視氏** (S55 卒)

1980 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (広瀬研究室)  
1980-96 株式会社山内設計室  
1996 一級建築士事務所株式会社オフィス露木 設立  
2009 FMC株式会社 設立

[テーマ] FMとBIM

## 3 時限 (13:45~15:15)

大気社  
**飯川公貴氏** (S60 卒)

1985 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (紀谷研究室)  
1985 須賀工業(株)入社  
1994 (株)大気社 技術部 (工事部) 入社  
2011 大気社 ベトナム出向  
2013 五洲大気社工程有限公司出向  
2014 (株)大気社 技術部 (工事部)  
現在 大気社 中部支店 購買課勤務

[テーマ] YOUは何しにサブコンへ

## 3 時限 (13:45~15:15)

中田製作所  
**中田理恵氏** (H18 卒)

2006 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (手塚研究室)  
2008 首都大学東京 大学院建築学専攻卒業  
2008-13 日建設計勤務  
2013- 中田製作所  
Awards  
2013 SD レビュー入選

[テーマ] 共につくる

## 3 時限 (15:40~16:50)

森ビル  
**新井章邦氏** (S63 卒)

1988 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (大須賀研究室)  
1988 森ビル株式会社入社  
2004 設計本部建築設計部プロジェクト設計G 課長  
2010 都市開発事業本部第一設計部設計企画G 課長  
2013 設計統括部設計推進部 部長 兼 都市再策企画室  
2016 設計部建築設計1部・設計推進部 部長 兼 都市政策企画室

[テーマ] 森ビルの街づくり構想 ~赤坂・六本木・虎ノ門のランドデザイン~

## 3 時限 (13:45~15:15)

遠藤克彦建築研究所  
**遠藤克彦氏** (H04 卒)

1992 武蔵工業大学 工学部建築学科卒業 (手塚研究室)  
1995 東京大学大学院 工学系研究科建築学専攻 修士課程修了 (東京大学生産技術研究所 原広司研究室) 同大学院博士課程進学  
1997 遠藤建築研究所設立  
1998 同大学院博士課程退学  
2007 株式会社遠藤克彦建築研究所(組織変更東京工科大学工学部建築学科非常勤講師 日本大学理工学部建築学科非常勤講師)

[テーマ] 「続けていくこと」で見えてくる建築

## 4 時限 (16:50~17:30)

**BIMの日 討論会**

『10年後のBIMを考える』

左記3名による討論会  
司会：桑原茂 (H06 卒)

## 4 時限 (15:30~17:00)

東京電力  
**佐野仁美氏** (H06 卒)

1994 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (松井研究室)  
1996 東京工業大学情報理工学研究科情報環境学専攻 修了  
1996 東京電力株式会社入社

[テーマ] 建築とエネルギー事業

## 4 時限 (15:30~17:00)

八王子市役所  
**橋本英章氏** (H04 卒)

1992 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (広瀬研究室)  
1992 株式会社松田平田 入社  
2003 都市基盤整備公団 出向 土地有効利用事業本部  
2006 片柳学園日本工学院専門学校 建築設計科 専任教員  
2011 八王子市役所 入庁

[テーマ] 建築としごと

## 4 時限 (16:50~17:30)

**ディベロッパーの日 討論会**

『“プロジェクトメイク/事業創造” という職能について』

左記3名による討論会  
司会：斉藤博 (S44 卒)

## 4 時限 (15:30~17:00)

アーキヴィジョン  
**石田有作氏** (H04 卒)

1992 武蔵工業大学工学部建築学科卒業 (鈴木研究室)  
1994 武蔵工業大学大学院修士課程修了 (谷口研究室)  
1995 武蔵工業大学大学院修士課程中退  
1996 株式会社建築研究所アーキヴィジョン入社  
2006 株式会社アーキヴィジョン広谷スタジオ設立  
2007- 同社 取締役副社長 東京都工科大学工学部非常勤講師

[テーマ] 建築を学んだことで広がる世界

## 第11回 如学会寄付講座 [特別講義(1) 建築の実務]

特別講義委員長 丹羽謙治 (S48 卒)

今回で第11回目となる特別講義は主に学部2年生を対象とした2単位取得の選択科目です。建築学科教室が主体となり、如学会がサポートする体制で行われております。5月16日に特別講師候補者を選定し交渉にあたり、候補の方々に講師を快諾して頂きました。

前回に引き続き「BIMの日」と今回新たに「ディベロッパーの日」を設定しました。「BIMの日」と「ディベロッパーの日」は70分授業の後、講師3人による40分の座談会とし、他は90分授業となりました。講師は学生に参加させる形式をとるなど学生を引きつける様々な工夫が見られました。最後に質問を受けるだけでなく中間でも質問を受け、学生に飽きさせない事も必要かもしれません。今回の寄付講座を終えて、特別講義委員会では以下の事を協議し、来年から実施することとなりました。「BIMの日」のように、70分の講義×3+討論会あるいは解説者による説明会とし、午後から授業とする。そうすることによって、学生・講師・担当者に負担のないようにする。講師間が交流出来、更なる発展へとつなげることができる。今年度は設計分野の講師が多く、選定に偏りがあったのでバランスの良い入選に務める。また、かつて実施した最初から最後まで全て参加型の授業を行い、学生の積極性に驚かされたこと等が話題になり、講義の組立にも一工夫必要だとの意見もでした。

また、大学の准教授の方、10年大学で講師をされている方、講義に慣れていらっしゃる方、全く初めての方と講師の方々も様々でした。皆さん後輩に熱意のある講義をして頂きました。18名の講師の中で、H04年卒の方が4名、H18年卒の方が3名と卒年が同じでもそれぞれ独自の道を歩まれているのが印象的でした。来年の講師を前倒しで決めたいと思います。講師になって頂く方を募集しております。自薦他薦を問いません。私、丹羽まで連絡して下さい。(dc-geo@e06.itscom.net)

講師をされた方は皆、講師を体験する事で、自分の仕事を整理できてとても有意義だったとおっしゃっております。8月1日から5日まで行われた講義でしたが、学生のみならず卒業した社会人にも有益な授業です。2日会社を休んで受講された方もいらっしゃいます。運営上、平日の授業になりますが是非聴講して頂きたいと思います。特別講義に関して要望も受け付けます。よろしくお願致します。

残念だったことが一つありました。最終日の講義終了後の学生と講師の懇親会に学生が6割程度しか参加しなかった事です。講義で質問が出来なかった事項を確認出来る絶好のチャンスを逃しました。レポートの提出が原因なのか定かではありませんが、例年になく低調でした。原因を究明し来年は改善したいと思います。しかしながら半数の講師の方が参加頂き、講師間の交流もなされました。

最後に、ご多忙中資料の製作と講義をして頂いた講師の方々とサポートして頂いた常任理事の皆様、このような有意義な機会を与えて頂きました建築学科教室に心より御礼申し上げます。



特別講義



講師を囲んで (最前列右・中田理恵氏)

## 第11回 如学会寄付講座 [特別講義 建築の実務] 講義レポート 18人の特別講師による20のテーマの講義を紹介

8月1日(月) 担当委員：桑原茂

### ●1時限「BIMによる建築業界の変化と学生に求める力」

#### 濱田祐也氏 (H18卒) 日建設計

濱田氏はH18年卒。今年度の講師陣の中では最も学生に近い年代ゆえ、リアルなメッセージを述べて頂いた。氏の冒頭の呼びかけに学生は、「BIMというワードを始めて耳にする」「具体像をイメージ出来ていない」といった反応に対し、世間ではデジタル化によるモノづくりの変革が現実起こっていること、大学では受講生の主体を占める2年前期までは手描きベースを置いている側面もあるが、時代の動向を見据える感性のある・なしは別問題とも言えよう。学生時代からCADに触れてきた濱田さんは、「手間がかかると手描き図面」から「素早く描けるCAD図面」へシフトすることに対し、便利な道具としての認識を早く捨て、環境解析などシミュレーションの質が向上するなど建築そのものの品質向上につながることを目指してほしいとのこと。デジタルフィールドの新たな活用法は加速度的に広がっているとともに、建築の在り方を検証する方法が多角化し、初期デザイン段階から「何を作ろうとしているのか?」と論議を厳しく問われる社会になりつつある。現役学生が社会を牽引する時代はBIMからAI化が進むであろうと述べる。人口の減少や経済の減退に反するよう、社会はより高度な専門知識を持った人材を求める時代となり、うっかりしているデジタルに職を奪われかねないとも言える。学校から教えられるのを待つのではなく、興味があるのであれば、デジタルツールを貪欲に試しながら自分自らの活用法を追求していくような気概を持って欲しいと訴えた。(記：桑原茂)

### ●2時限「学生のためのBIM」

#### 村松弘治氏 (S57卒) 安井建築設計事務所

村松氏は、BIMに関する講演を様々な場所で展開されているこの分野の第一人者です。昨年度もご登壇頂きましたが、改めてその豊かな見識を学生に伝えて貰いました。安井建築設計事務所が沿革から触れられ、作品の紹介と共に組織設計事務所へとクライアントや社会が期待している内容が多様化してきている変化を挙げられました。デザインとして見える外観のみならず、快適性や機能的な向上、環境負荷の軽減、コストコントロールなど、総合的に物事を見据えながら設計する能力が必要とされていること、建築が相関的に影響しあう分野が広がり、細分化が進み増々複雑になっていくであろうと指摘する。デジタル化の本来の役割は、多様化していく課題や要求に対して、次元の異なる視座や検証方法を自由に行き交える状態を作ることと説かれました。一つ一つ問題を解決していくシーケンス型の設計手法から、全てを並列に繋いだコンカレント型の手法へとシフトさせていく中でBIMの有用性に早くから着目したそう。ニーズは、維持管理までを含めた建築のライフサイクル全体の品質管理とコストコントロールを厳しく求めている。コスト面からみると維持管理費用は全体の80%を占めるとされ、昨今はBIMとファシリタマネージメントの連携を高めていく取組みを進められています。将来は建物や社会に散りばめられたセンサーからのビッグデータを収集しながら、設計も維持管理も還元しながら進めていくことで、社会基盤を統合して見据えていくツールになるだろうとまとめられました。(記：桑原茂)

### ●3時限「FMとBIM」

#### 露木博視氏 (S55卒) オフィス露木

露木氏は、建築設計から店舗のディスプレイ、建築工法や部材の開発など手広く活動されていますが、20年ほど前からファシリタマネージメント(以下FM)や建築データの管理サポートのコンサル事業などにも従事されています。BIMの優位点は建設前から問題を把握出来る所にあり、設計や施工段階での質の向上や時間短縮、コストコントロール面で役立っていることをフィーチャーする一方で、企画・設計・施工の建物を建てていく段階に比べ、運営管理・維持保全・資産管理といった建物を使っていく段階は、期間も長以上にコスト面でも大きな負荷となっている現状を指摘する。紙媒体での図面保管・管理の問題点に早くから着目され、デジタルによって設計図・施工図・竣工図・改修図・管理図の5つの図面データを一括的に管理していくことを提言し始めたとのこと。FMを一体化したシステムがBIMの本来あるべき姿であると説明されました。我々はアナログからデジタルへと急速にシフトしていく社会に生きています。電子書籍や音楽配信など内容や情報が実物質から離れ立ち立っていく様に感じますが、生活や活動を内包する建築物は実体を失うことはありません。しかし、建築後に構造物や断熱の仕様など中身を見返すことは非常に難しい。先に露木氏が挙げられた5つの段階において、いつどのように仕様変更が成されているかをデジタルデータへと置き換えておくことのニーズは高まっています。(記：桑原茂)

### ●4時限「10年後のBIMを考える」

#### 討論会

この日はBIMをキーワードに授業を構成し、レクチャーの後に座談会形式による討論の機会を設けました。デジタルファブリケーション関連の授業を行っている立場から、私(桑原)が司会を担当。現役学生が社会で活躍する頃の社会を見据えて「10年後のBIMをテーマ」とする。ポケベルさえも誰も持っていなかった自分の学生時代に現在のデジタル化の躍進を想像することはありませんでしたが、ふと気付いた時には身体機能の一部がデジタル化されています。単なる使い手ではなく、デジタルの新しい使い方を開拓していく立場になって欲しいと思いました。簡単に各講師のコメントを紹介します。

濱田氏：AI化が進んでいるだろうが、全てを委ねてしまうことは違う。何を目的としてどのようにAIを活用するのかが、精査する側の人になれるかが重要である。事例をコピーしてオリジナル性を消失していくのではなく、様々な検証を柔軟に反映させながら新しい独創性生まれるのではないかと。村松氏：企画・基本・実施へと段階的な区切り付がなくなり、始点から終点までをシームレスに考察しながら設計を進めていくことが出来る。より多角的な検証が可能なので豊かな感性を織り込んでいけるだろう。ビッグデータを取り込んでいくことで、社会基盤を統合していくツールとして成熟する。露木氏：部材の干渉も事前に把握出来るのが道具としての利便性は素晴らしい。PCが勝手に計画を遂行してしまう訳ではないので、使う側がしっかりとした理念を持っているかが重要である。(記：桑原茂)

**8月2日(火)**
担当委員：小笠原岳、米澤昭、小林秀憲

- 1時限「建築と○○と照明について」

## 久保隆文

氏（H11卒）環境デザイン

久保隆文氏は、当大学電気電子工学科および当大学院工学研究科電気工学専攻を卒業後、大成建設株式会社勤務された。同社では土木本部の施工部門に所属し、橋梁施工に携ったが、照明デザイナーへの道を志して退社。その後、世界的に著名な照明デザイナー、面出薫氏が代表を務めるライティングプランナーズプロジェクトに勤務し、札幌駅地下歩行空間や札幌市チャペルなどの照明計画に従事した。2014年には独立し、照明デザイン事務所マンデルトンを設立。住宅、集合住宅、店舗などの照明計画を行う傍ら、建築国際コンペの照明コンセプトなどを手掛けている。

講義は、照明デザイナーの仕事、照明計画について、建築と関わりの深い各種要素と照明の関係性について、を軸に展開された。照明デザイナーの仕事として、空間の照明デザイン・建築インテリア、意匠照明、舞台照明などが紹介された。照明計画については、久保氏が重要だと考える5項目(1. 快適な陰影のバランス、2.鉛直度を明るくする、3. グレアをなくする、4. 適正な色温度計画、5. 光の時間変化)について、実例を交えながらの紹介がなされた。例えば、東京国際フォーラムにおいては、床を照らすずに壁を照らす手法(2. に相当)や、和室の照明計画では床の間を光を外に出すず、床の間だけで完結させる手法(3. に相当)などが紹介された。

建築に関する照明については、素材・展示・空間・教育をキーワードに、事例紹介がなされた。例えば、「展示」については、重要文化財の美術品を展示する空間において、展示物(書や仏像)によって微妙に調整した事例が紹介された。「まち」については、実現には至っていないものの、山口市のクリスマスライトアップ計画が紹介された。

講義を通して、照明とは単に基準の明るさを確保するだけでなく、空間を使う人によって大きく変わることが示された。久保氏が示したスライドの写真は、いずれもクオリティが高く、聴講者を照明の世界へと誘い込んでくれた。また、照明に関する専門用語は適宜補足を加えてくれたため、大学2年生の学生にとっても聞きやすかった。興味ある講義を展開してくれた久保氏に感謝するとともに、今後のご活躍を祈念したい。(記：小笠原岳)

- 2時限「建築を「伝える」仕事」

## 小笠原岳

氏（H11卒）明星大学

小笠原先生は当大学建築学科近藤研究室を卒業後、サブコン勤務、博士課程への進学、博士号取得、東京理科大学助教を経て、明星大学理工学部総合理工学科学部建築学系の准教授として現在に至っています。講義は「大成建設の仕事」と「大学教授になるためには」の二部構成です。

「大学教授の仕事」のお話では、建築学会として行った国立西洋美術館の調査研究が世界遺産登録に貢献したという、大変興味深い逸話を伺いました。同美術館は、コルビュゼ建築の一連の建築・都市計画作品のひとつとして世界遺産登録されたものですが、登録申請当初は、コルビュゼ建築からかanceledしてしまっている現状では登録できないと世界遺産委員会から判定され、登録がピンチに陥ったそうです。理由は、コルビュゼ建築の特徴である開放的なピロティがガラスで覆われたり、連続採光窓等が人工照明亮化された等の改修がされていたからです。このため、小笠原先生達は展示室を調査し、CFD（空調シミュレーター）結果と実測結果とを比較しながら改修計画を立案し、既存の空調設備を活用した改修を施すことで原状回復し、漸次登録がなされたこととです。また、理工大付属中高校の同級生の櫻井さん(明星大の准教授として就任)との異分野共同研究をされ、建築設備の研究者である小笠原先生の学問常識と環境影響評価の研究者である櫻井先生の学問常識とで、大きな違いがあったという逸話を伺ったり、鹿舎の馬房内環境が如何に競走馬の成績に影響を与えるかという、馬主ならではの興味深いお話を伺いました。最後に「大学教授になるためには」のお話を伺いました。大学教授は、若者と一緒にいることで常に元気をもらい、好きな研究に取り組めるだけでなく、研究成果を社会に貢献できる最高の仕事とのこと。「教員になることは目標にしない!」、しかし「タイミングは逃さない!」だから「今は大事にし!」「自分を磨く!」というスライドは、研究環境に就くことを目標にしたがら平穏では無い道を進まれ、見事キャリアアップを果たした小笠原先生らしい総括でした。(記：米澤昭)

- 3時限「YOUは何しにサブコンへ」

## 飯川公貴

氏（S60卒）大気社

飯川さんは当大学建築学科紀成研究室を卒業後、須賀工業を経て、大気社技術部(工事部)へ入社し、ベトナム向け、中国向けを経て現在、同社中部支店購買課勤務です。飯川さんからは、大気社の事業紹介を通じて、設備サブコンとはどのような仕事をするのかの話をしていた。

最初に建築設備の重要性について説明があった。建築は全て建設会社が行われるだろうと考えている学生に対して、設備会社(ゼネコン)は躯体の作り手であって、設備等はサブコンが作り手であること、サブコンが担う空調設備はビルのエネルギー消費構造から見てと全体の4.3%を占めること、従ってサブコンの仕事は省エネを左右するものであり、ビルに命を吹き込む仕事であるという説明があった。次いで、大気社の業務内容についての説明があった。同社は、施設やオフィスビルに設置される一般空調、及びクリーンルームなど産業空調に代表される環境システム事業部と、自動車ボディ塗装工程の塗装設備事業部の二部門があることの説明があった。一般空調については、一般居室における空調空気の流れをファンや空調機、熱交換器、及びダクト等で構成されるフロー回を基に説明し、産業空調については、代表的なクリーンルームの空調空気の流れや、それを構成する機器の説明を行なった。サブコンの仕事は、これらの機器を製造するメーカーではなく、お客様オーダーメイドの空調設備を提供している。すなわち、メーカーから製品を購入し、システムを提案している事の説明があった。同社は、このような技術の強みを活かし、海外売上が6割以上上にあることの説明があった。その後、サブコンの主たる業務となる施工管理の仕事内容の説明があり、同社には施工管理、設計・積算、研究開発があること、設計・積算部門では3DCADが一般的に用いられ、シミュレーションに基づきシステムを設計すること等の説明があった。最後に、質疑応答では、入社後に様々な資格を取得したこと、趣味の英会話が海外向けで大変役に立ったこと等の逸話がお披露目された。(記：米澤昭)

- 4時限「建築とエネルギー事業」

## 佐野仁美

氏（H06卒）東京電力

佐野氏は、1994年に卒業し、そのあと東京工業大学情報理工学研究科情報環境学専攻に進み、1996年に同校を修了した。同年に東京電力株式会社就職し、現在では東京電力ホールディングス株式会社 福島本部 基準総括グループに在籍している。高校時代には、一旦は文系を志すが「技術」の大切さを感じ、理系の道に進むことを決めた。「環境」への関心が高いこと、さらに将来「環境」に関係する仕事に就くことを志し、建築学科を選択した。バブルがはじけた後の就職難、女性の就職先がまだ少なかった時代であり、苦勞があったと想像できる。それでも、環境へのインパクトが大きく、エネルギーインフラの大手企業を目指した。

東京電力ホールディングスでは、発電所、送電施設、配電施設など約7,000棟、約500万㎡の建物を所有しているが、それらの建物計画から維持管理に亘るおよぶ業務約450名（そのうち一級建築士200名弱）の社員が携わっている。「電気をつくり、届ける」という電力会社の社会的使命の中で、建築技術者の果たす役割は、すべての建物を的確に機能させ続けるために建物に関するすべての業務を一貫してマネジメントすることである。

3.11以降の電力小売り自由化、発電送電の分離などが進み、東京電力もホールディングカンパニー制に移行し、燃料・火力発電事業会社「東京電力フュエル&パワー」、一般発電事業会社「東京電力パワーグリッド」、総合的なエネルギーサービスを提供する小売電気事業会社「東京電力エナジーパートナー」に分化した。佐野氏は現在「東京電力ホールディングス」において、原子力補償業務に携わっている。東京電力ホールディングスは、大きなエネルギー変革の流れの中にあるが、そこで働く社員一人一人が、「福島復興への責任」を原点に、エネルギー会社としての使命を担い、エネルギー産業の新しい「競争」の時代を勝ち抜いていくために、大きな変革を実行すべく日々業務に励んでいる。

最後に、佐野氏が学生時代に行っておいてよかったこととして、さまざまなアルバイト経験、いろいろな場を経験できる旅行、仕事に出ても続けられるスポーツを挙げた。さらに自分ではできなかったが、経験しておくとうれいと思ふこととして設計事務所でのアルバイト経験、教育資格の取得を挙げた。さらに、「技術」と「発見」を広め、「夢をもって突き進んでいてほしい」と最後にアドバイスした。(記：小林秀憲)

**8月3日(水)**
担当委員：小林捨象、芝本敏彦、相原俊弘、青柳浩男

- 1時限「施工会社における生産計画の役割」

## 北野一彦

氏（S54卒）鉄建建設

北野一彦さんは筆者と同期で、1979年に本学を卒業後、鉄建建設に入社。爾來38年間、鉄道関係の施設・建物づくりに関わってこられました。現在は生産計画部門で技術提案や施工・安全計画の業務に携わっておられます。昨年の進路ガイダンス第一部では総合建設業施工部門の講師を務められ、過去40年間の建設業界の大きな流れをグラフで分かり易く解説。今回の講義では、この大きな流れのなかでやってきたこと、そして今後のあるべき姿について言及された。構造耐力や災害対策、維持管理等に対する要求性能が益々高まり、品質と安全を確保できることが企業の生き残る必須条件で、対応を誤ると会社がなくなると、指摘。建設現場での事故にも触れ、鉄道関連工事のもつ特殊性や安全に対する配慮など、たいへん興味深いものでした。新宿駅、品川駅、川崎駅といった駅舎の工事を担当され、その一部をスライドで、また立川駅の工事で経験した「ソーダ工」を動画で紹介。あらかじめ組み上げた鉄骨フレームを水平にスライドさせて鉄道架線上部に架構骨組みを造るという工法で、夜間照明の下で作業が進められ夜明けとともに立ち現れる鉄骨架構の姿は感動的でした。また、「ライン」と「スタップ」という表現で建設会社の業務を解説。現場で建物を作るのがラインで、それに協力・支援するともにも会社全体の運営にかかわる内勤の業務がスタップということになる。最後に、学生へのアドバイスとして「Know Why」「Do your best」「地道に、ちゃんとやること」という言葉を伝えてくれた。HowではなくWhy。何故かを問い、その本質を知ることによって臨機応変の対応ができる。そして最善を尽くす地道な真面目さが大切であると、その言葉を生きてきた私にとっても、この言葉はいまだ私に納得させられる至言であり、そしてまた、ちょっと耳に痛いフレーズでもありました。(記：小林捨象)

- 2時限「住宅業界の原状と展望、住宅メーカーの街づくり」

## 柳生直彦

氏（H04卒）大和ハウス工業

3日2時限目は、1994年院修了後、大和ハウス工業にお勤めの柳生直彦さんの講義です。内容は、大きく3つ、1. 住宅業界の状況、2. ご自身の仕事内容、3. 自社のまちづくり で構成されました。

住宅業界の現状は、着工戸数に着目し「いつの時代も必要な住宅」と位置付けながらも、リーマンショックなどの景気変動と密接な関連があり、住宅技術をベースにした様々な規模や商業、工業などでの建物用途の建設に手を広げている実情を示しました。また、資金を生かしたPFの実績提示など、インシャルコスト縮減などの時代の要請に十分にこたえている様子を示しました。売上額のうち住宅関連は約半分、残りは非住宅として比率も多様化する業務種別を如実に物語っています。その中で、顧客との出会いから企画力を生かした提案、工事中の監理業務、近隣対応まで一貫して担当し、引き渡しを迎える喜びを語るくどくどは、建築に関わるもの皆の共通の感情でも感じます。入社以來、建築設計課での真摯な仕事ぶりが表れていました。

講師はこれと、都市開発部に異動になり、3点目のまちづくりに密接に関わります。いくつかの分譲住宅地開発の例を示しながら「環境共生先導都市」を謳い、敷地独自の自然環境と整合させた事例やユーザーマニションを核とした再開発事業の例を挙げながら開発を含むプロジェクトの実績を示します。

講義の中では、大胆に新提案を取り入れた「スマ・エコシティ」が研究学園」にスポットを当てます。電線地中化、太陽光パネルによる発電+蓄電池、保水舗装、緑のアイストップなど、大規模開発でないし採用しにくいものが実現でき、大きなテーマとしてCo2削減の見える化→低炭素タウンを標榜しています。また、維持管理は必要な団体を結成し、イベント開催や清掃などで地域の結果を維持していく様子が丁寧に描かれていました。

お話を伺い同じ学生ながら部署の横断により多様な職种をダイナミックに経験できた好例だと感じました。自分の住む地域はなぜ積極的に開発されないのか、材料はどうか などの疑問点にその質疑にも真摯に回答され、説明者の人柄を表していると感じました。(記：芝本敏彦)

- 3時限「共につくる」

## 中田理恵

氏（H18卒）中田製作所

イギリスで生まれたD・I・Yの概念は私が見聞したドイツでは社会的にひろく定着しているようだ。住宅を欲しい人、または家族が専門家の力を借りながらも、主体的に楽しむから自分たちのペースで物作りを行っている。我が国日本では住宅産業界の企業が供給側の強者と仕組みで出来あがいのシステムによる住宅物件をユーザーに提供している。そこでは大量生産の為に検討された特定の技術が使われる一方、うまく売り利益を高めるためのユーザー個人にとって必ずしも必要としない設計やスペックが引入れている。

当大学手塚研究室を出て更に首都大学東京で学んだ中田氏がテーマとして「共につくるための組織」を大学で学んだパートナーを含む人たちで構成される製作所である。一般的な設計事務所のあるとらないのは彼女の研究室の先輩で気鋭の建築家として活躍中の奥田祐輔のすず製作所と同じである。

住宅を共につくるためには施主との話し合いを含めたコミュニケーションが大切だが、それを楽しもうにやっているとが印象的だ。施主と建築家の関係はいつも仲間で何か楽しい事ややっているうちに設計がなされ工事が進んでいく感じだろうか。

施主も気が付いたら内装工事の一部をやらされている、または設計、あるいは工事内容について話しているうちに自分も物作りの当事者として深みにはまって参加しているイメージだ。その分中田氏の思うような建築職、物づくりとは何かが自然と頭や身体の中に入っていくことで施主としての満足感を得られたと納得していただけるかもしれない。どにか設計者、施主共に楽しもうだが他に問題点はあるかとの活発な質問が受講の学生から為され、おおいに講義としては盛り上がった。(記：相原俊弘)

- 4時限「建築としごと」

## 橋本英章

氏（H04卒）八王子市役所

講師は広瀬研で学び、卒業後はいくつかの建築に関わるしごとに従事し、現在は八王子市役所に勤務。講義はこれまで経験してきた建築のしごとの解説と魅力を学生にわかりやすく説明された。

1992年に本学を卒業して、組織設計事務所松田平田設計に入社。建築設計部に所属し、日本銀行本店、羽田空港施設、東京競馬場、横浜日産スタジアムのはが、オフィスビル、商業施設、物流施設、宿泊施設、警察施設や再開発事業等、新築およびリニューアル、意匠設計から現場監理業務に携わった。いい建物をつくるにはは建築主、設計者、施工者の三者のつなぐトライアングルの関係が必要であると語った。その後2003年から都市基盤整備公団に Outreach。土地有効利用事業本部東京都中支社に所属し、都心部の細分化土地や低未利用用地の付加価値増進を図り、事業用地の開発、民間開発業者への譲渡ならびに再開発事業に関わってきたことについて解説した。2006年からは、片桐学園日本工学院専門学校に専任教員として勤務し、主に建築計画、設計製図、研究プロジェクトを中心に担当した。次世代を担う若い学生の人材育成に関わり、建築教育のしごとについて説明し、よい建物をつくるためには、よりよい人材（クライアント、設計者、施工者）育成が大切であると語った。その後2011年には、八王子市役所にて建築職として入庁。財務部建築課（営繕）を経て、建築指導課に所属。公務員の建築職として、建築指導、開発指導、営繕設計、工事監理、維持管理計画）、都市計画、土地利用、施設管理等があることを紹介し、それらの業務内容や行政が抱える建築分野の問題点等について、講師の経験や抱負を交え、わかりやすく解説した。また、八王子市の都市環境づくりについては、行政が自ら取り組む事業（道路、公共施設・観光イベント等）や行政がコントロールする施設（地域ごとの土地利用方針、法的規制、補助金活用等による誘導）などの視点から、行政のまちづくり実際について説明した。近年改訂を行った都市計画マスタープランに関しては、20年後のめざすまちの姿、都市づくりの方針、様々な分野・施設と連携した総合的、一体的な都市づくりや用途地域を示す都市計画方針などについて説明した。さいごに、学生生活を送るにあたって、

- ・様々な視点でまちや物事を見てみよう（歴史、地理的要因、経済的要因等）
- ・関心の幅を、情報への感度を高めよう（建築と都市に関連するさまざまな話題）
- ・自分の様々な切り口を探してみよう（建築=設計だけとは限らない）
- と、次の世代を担う若い建築学生に向けてアピールを込めた。(記：青柳浩男)

**8月4日(木)**
担当委員：斉藤博

- 1時限「ゼネコンにおけるデベロッパー部門の役割（環境コンサル業務担当者立場から）」

## 岩崎安孝

氏（S63卒）鹿島建設

岩崎氏は1990年修士課程（宿谷研究室）を卒業後、鹿島建設に入社、一貫して開発事業本部にて「環境影響評価」を担当し、環境視点から開発事業に関わってきた。鹿島建設の開発事業への参入の第一歩は「志木ニュータウン」からで、以降、「ゼネコンデベロッパー」として「企業グループ全体のノウハウ・人材を活用し開発事業を実現する特徴」を活かした大型開発事業が推進されてきた。「ゼネコンデベロッパー」と「専業デベロッパー」との違いは前者が「社内の設計、施工、環境、エンジニアリング、技術開発、管理運営というグループ力を活かして開発事業に取り組むことで高いクオリティを実現できる点にある。」と説明された。岩崎氏は「環境と開発」という立場で多くの事業に関わり、1994年から4年間「当間高原リゾート／ベルナティオ」（第3セクター事業）に Outreach、開発・開業支援を担当した。当時は「バブルの崩壊」と「持続可能な開発に向けた地球規模の取組」が目玉され始め、リゾート開発の立ち上げに厳しい経済環境であり、氏に課せられた主たる課題は「事業規模の見直しによる投資抑制」と「自然環境に配慮したコンセプトの見直し」であった。結果として、初期投資額を抑制することに成功し、自然環境配慮においては「調整池」を活用した水辺の生物生態空間の復元、里山環境の創出を実現させた。その後(当間高原リゾート)では自然環境配慮の取組が発展的に継続され、2003年には「土木学会環境賞」を受賞している。大規模な自社開発案件として、港区の「赤坂Kタワー（地上30階/地下3階/塔屋2階、延べ床面積約53,777㎡）」を担当し、新技術を採用した解体工事（鹿島カッタータワー工法）をはじめ、設計、施工の担当者との共同作業のもと、事業を推進したことが紹介された。現在、「開発事業本部/環境影響評価担当部長」として鹿島建設の「環境アセスメント部門」の一翼を担っており、「近年対応件数が多くなっている都市部の再開発においては、都市計画手続さきと環境影響評価手続きの進捗調整が必要である。環境アセスの内容としては、風環境、交通量への配慮が重要なポイントとなっている。」と主張された。(記：斉藤博)

- 2時限「東急電鉄のまちづくり」

## 打矢潤市

氏（H12卒）東急電鉄

打矢氏は2002年大学院修士課程を卒業、東京急行電鉄に入社。多くの開発事業プロジェクトを経験し、現在は「都市創造本部にて渋谷区」を担当している。当講義では「東急電鉄のDNA」がどのように形成されたかを創業時に遡って経時的に説明された。「街づくりモデル」として「多摩田園都市」「田園調布」開発の歴史的説明がなされた。特に多摩田園都市では沿線の5 8団体との交渉を経て東急電鉄主導の多くの「区画整理事業」を推進してきた。また現在進行中の「渋谷開発」の全体像についても詳細な説明があった。この中で「東急電鉄のディベロッパ」としての特徴を、1st /将来の鉄道敷設を前提に、先ず「まちづくり/住宅団地の開発」が為され、人口が定着した時点で、2nd「鉄道駅が整備」され、これにより周辺人口が増大、3rd「人口増により鉄道輸送人員が増大」、鉄道利用者の増大に合せ、4th「駅前に大型ビル等商業施設を整備」した新たな魅力を導入、この効果により更に周辺人口が増大するとう「鉄道・交通」「不動産」「生活・商業」という「コア事業連携による相乗効果」即ち「上記3要素」を循環させることで付加価値を永続的に創う「東急電鉄というディベロップメント」の基本であるという。

講義の中で学生たちに「まちづくりをしてみよう」という参加課題」を提示。10分間全員に「自由が丘駅前のビルをリニューアルするとしたらどのような施設が入って欲しいか」を考させ、氏が学生達に分け入って質問し共に考えるワークショップを行った。打矢氏は「自分だったら」として「自由が丘スイーツカチャチャ構想」を説明した。自由が丘には現在スイーツショップが40数店あり「スイーツ文化の拠点」と言える。そこでこのビルに「スイーツ起業支援拠点」を設ける。「新規・起業ワーク支援・創業店舗舗イベント等PRの場支援・育成成功し外部に開業→新規起業者への支援」の循環により自由が丘の魅力を継続的に作り出していくという提案であった。これは打矢氏が目指す「環境型街づくりによる事業開発」の視点を明快に示すモデルであり、「東急電鉄の都市開発のDNA:歴史・伝統と共に育まれてきた価値観」を学生たちに分かり易く示してくれたのと言えよう。(記：斉藤博)

- 3時限「森ビルの街づくり構想～赤坂・六本木・虎ノ門のグランドデザイン」

## 新井章邦

氏（S63卒）森ビル

新井氏は1988年森ビル入社後「プロジェクト設計」「都市開発」担当として多くの実績を重ね、2011年には「新建築7月別冊「森ビル 建築から都市へ」の編集責任者として「故森総社長の都市づくりへの夢と哲学、そして実現への強い意志の表現」の中核を担った。当講義ではこの特集号の資料を基に、西新橋の小さなビルの建設・運営からはじまり、「六本木ビルズ」に代表される大規模複合都市再開発を実現するまでの「ディベロッパ-の不断の挑戦と成長の軌跡」を6つのステージに要約し、「ディベロッパ-の実態」を分かり易く紹介された。

- 第1章 1955-1970 ナンバービルの時代 合理的なオフィスビルの追求
  - ▶高効率オフィスによる事業性が今日の森ビルの経営基盤を支えてくれた
- 第2章 1970-1986 アークヒルズの時代 複合化への模索
  - ▶アークヒルズに森ビル開発の特徴が表れている(大丸有(大手町・丸の内・有楽町エリア)、日八草(日本橋・八重洲、京橋エリア)のような平坦な敷地で確保が困難であった森ビルは自然と傾斜地型開発となる(これは各レベルからの多様なアプローチが取れる魅力となっている)
- 第3章 1986-2003 六本木ビルズの時代 加速する複合化：グローバル化・IT化・スピード化の時代への対応
- 第4章 1993-2008 上海環球金融中心の時代 地上100階を超える
- 第5章 2003-2014 現代 東京のグランドデザインを見据える
- 第6章 2030年へのビジョン 東京が世界での都市であり続けるために森ビルのまちづくり構想の歩み/アーバンニューディール政策
  - 敷地から街区へ/Vertical Garden City
  - 街区から都市へ/森緑・伊藤瀬によるグランドデザイン私案

こうして東京の発展と共に成長し、21世紀の都市像を描く森ビルの全貌に、建築的・都市的視点から触れる機会を得ることができた。森ビルは今後も「赤坂・六本木・虎ノ門・新橋地域のグランドデザイン」を中核として、開発事業を通じて「文化都市」の創造にこだわって行きたいと主張。森ビル中興のカリスマ「森稔社長」の都市開発への哲学を間近に触れ、体得された新井氏の2030年に向けた活躍を大いに期待したい。(記：斉藤博)

- 4時限「"プロジェクトメイク/事業創造"という職能について」

## 討論会

「ディベロッパ-の日」3講師の講義終了後「3講師十司会：如学会副会長/斉藤博(S44卒)」による「プロジェクトメイク/事業創造という職能について」と題した討論会、質疑応答の場を設けた。斉藤博(S44田辺研設)は日本設計入社後「建築設計部」在任中、プロジェクトメイク機能の必要性を説き「開発計画部」を開設、日本設計大規模事業(浜松アクトシティ、アークス福岡等)の総合プロデュースを担当してきた。こうした経験から先ず「建築学学科出身者」がディベロップメントに関わる時の立場につき3講師に答えてもらった。(「岩崎氏」からは「環境影響評価」をテーマに研究していたことから鹿島建設でも一貫して開発事業に於ける「環境テーマ」の役割を担ってきた。開発事業に於いては「環境影響評価」「風環境、交通影響評価」等「環境系技術」分野が重要である。企業で自分は何をやりたいのか方針をしっかり持つことが大切。「打矢氏」からは「東急電鉄という企業のDNA」と自分の目指すところとが一致することが重要。鉄道事業と都市開発事業とが相互に成長発展を相増する仕組みを描くことと楽しさを強調された。「新井氏」は「トップの夢・ビジョン」に寄り添って自分の立ち位置を切り拓いていくことが出来た。森ビルの開発対象地が単純な開発案件ではない(課題を「開発魅力に組み替える」価値創造(ARKヒルズは傾斜地改修)多様な取組が可能)となった「参道ビル」の建物の高さ抑制は「大規模地下商業空間」の発生に「ラフォーレ原宿」が単体で「断面から」断然「優秀なマンションメーカー発掘・育成システム」を構築し新たなブランドを創出等に)これからも取り組んで行きたい。その後、会場の学生から質問に3講師個々に回答頂き盛会のもとに「ディベロッパ-の日」特別講座を終えることができた。(記：斉藤博)

**8月5日(金)**
担当委員：舟岡努、栗田祥弘、露木博視

- 1時限「組織設計事務所での仕事～再開発事業から住宅まで」

## 川端彩乃

氏（H18卒）入江三宅設計事務所

組織事務所の役割とは、仕事を進めるうえで重要なことはなにか、川端氏が携わった物件の紹介を軸に講義はすすめられた。設計統括、設計、外装デザイナー、構造と役割の異なる設計者、組織の連携で「六本木再開発」は設計統括。設計、外装デザイナー、構造と役割の異なる設計者、組織の連携で進められた物件であった。その中で、入社間もない川端氏は地権者対応として、地権者の住宅となるプランニングを担当した。ここで、事業主が地権者との話し合いを大切にする姿勢に感じ、設計の原点と受け止めた。「団地建て替え事業」では団地建替のコンセプト提案コンペへハウジングメーカーと共同で挑んだ。街区の特性を際立たせ形成する街ポイント施設を配置する提案で事業を勝ち取り、事業のデザイン監修を担当する。ここでは、共同で仕事を進めるハウジングメーカーのブランドイメージを意識し、更なる差別化のためのブランドイメージ創りを考えた。「新橋のオフィスビル」ではこれまでにないデザインを最後の事業と意気込む視点を強く要望された。要望に応えるべくファサードの研究を重ね、3案を提案し、実施案が施主により採択された。「特別養護老人ホーム」、「箱根のホテル」、「別荘」の紹介の後、最後に「都内個人住宅」でのエピソードが紹介された。用途、規模、そして顧客の異なる多様な物件で共通していたのは、共に建物を造ってゆくもの同士の協働、そして、施主との空間イメージ共有、つまり施主の考えを引き出し、さらに+αを創り出すことの重要性であった。

学生時代に聞いた岩崎先生の言葉がある。「建築はひとりではできない」。本講義では事例をとおして、具体的に実務に必要な事柄とともに、この言葉の意味を語っていただいた。(記：舟岡努)

- 2時限「建築と環境」

## 上田克行

氏（S61卒）久米設計

講義は上田氏がこれまで設計された物件の紹介から始まった。「高崎シティーホール」「那珂川遊覧船」「明治大学 アカデミーコンシ」 「東叡」1丁目南地区再開発事業」、いずれも輝かしいた逸話をもつ作品である。

本題として、2016年4月新建築にも紹介され話題となっている興味深い2つのプロジェクトが紹介された。「大日本印刷市谷工場整備計画」はこれまで20年の歳月をかけて計画されてきた。

施主である大日本印刷のブランドステートメントは「未来のあたりまえをつくる」、そしてプロジェクトのテーマは「都市の社をつくる」である。社は樹木があつてのものなので、樹木については無難のこと、樹木の生育に最低限必要な土の深さ、自然な森の印象を造る要素はなにかについても研究もすめ、様々な検討を加えながら計画はすすんだ。こうして、出来あがつた社は、企業の方考え方を地域に知らせるためのコンタクトスペースや社員が社を楽しむための仕掛けを備えた建築となり、ステートメントの具現化を図っている。社の実現と同時に、工場としての機能を確保するために、工場は地下に置かれている。工場とはいえ人が働くところ、トップライトと反射壁等の制御により自然光を導いている。また、印刷工場を稼働させながら建替えるという制約条件も克服し、都心に新たな試みを実現した建築が誕生する。

「府中市庁舎」は庁舎でなんだろうという自問から始められた。庁舎は旧字では「廳舎」と書かれた。聞くための建物。庁舎の建築史も研究された。このような研究と考察を経て、市民と行政の関係性に重点をおいた府中市庁舎のテーマは定まっていた。テーマの具現化にあたって、計画地域の並木、神社を意圖的に取り入れつたなご、軒の連なりを巧みにデザインしている。周辺、計画のキーワードである「おもや」と「はなれ」に人々をいざなっている。H22年に完工した。設計者の地に足をつけた研究に基づき、真摯な努力の姿がひしひしと感じられる講義であった。(記：舟岡努)

- 3時限「『続けていくこと』で見えてくる建築」

## 遠藤克彦

氏（H04卒）遠藤克彦建築研究所

「見逃せない将来に対して、今何をすべきか」。寿命の長い「建築」に携わる者として、私たちは将来を見すえた計画をする必要がある。公共の財産たる「建築」を考えるにあたって、遠藤氏は個人の非日常性だけにフォーカスせず、不特定多数の人々の日常を作り出すことが重要と説く。将来のことを見逃さないことが多し。その将来の建築をつくるために我々は何を準備して設計に携わるべきなのだろうか。

そこで遠藤氏は設計の強度に注目をした。どのような大きさ・機能でも使える手法をみ出すために「手法のリサーチ」を構築していくことに注力する。コンペやプロポーザルを多く出すことで、公共の不特定多数の人々の日常に対してどのような解決策があるかを、計画学の観点だけでなく「構造や環境の観点からよりリサーチを通して普遍性を獲得する努力をしている。さらにその「手法のリサーチ」は、「主観」ではなく「客観」で評価するものでなければならぬ。「キレイとかカワイイ」という主観的な言葉ではなく、「新しい」などといった客観的な視点に重点を置く。客観的な視点で人を幸せにするための手法を探していくこと、探し続けることに将来の建築に対するヒントがひそんでいる。

そして最後に遠藤氏は学生たちにアドバイスをする。良い案を作るだけではない。その案が相手には伝わらなければならない。伝わらなければどんなに良い案を作ってもその案に意味が生まれない。「伝える」ということはすなわち「コミュニケーション」。建築は一人で作るものではない。様々な人々に思いを伝えていくことで、人々を巻き込みながら作られていくのだ。つまりコミュニケーションが建築をつくっていくのだと。(記：栗田祥弘)

- 4時限「建築を学んだことで広がる世界」

## 石田有作

氏（H04卒）アーキヴィジョン

石田氏は、本大学博士課程の途中で設計事務所就職、その後11年前に独立し、現在は、所員15名の事務所の取締役副所長として幅広い分野で活躍されています。(注1) また、本大学非常勤講師として3年生の設計授業を担当されています。

講義では、「建築を考えるプロセスには、「リサーチ⇒モデル化(構成功)⇒3次元空間へのアウトプット(造形力)」の流れがある。「リサーチ⇒モデル化(構成功)」の過程は、与条件を決めることに近い。与条件を自分なりに解釈し直すことは重要で、それを踏まえて3次元空間へのアウトプットへと繋がっていく。そして、アウトプットを検証し、モデルを見直したり、時にはリサーチまでフィードバックする。このプロセスを繰り返し進め、建築を作りあげていくことが重要である。また、設計実務では、「どうつくるか」から「何を、どのようにするか」が多くなった。建築単体（モノ）だけではなく、使われ始め、そこで起る出来事を含め、リサーチ構成を考える部分（企画力）が重要視されていく。」と述べられた。学生に向けてのこれらの言葉として、今後の授業と組み合わせ、「建築を考えるプロセスとその方法論を知っていることが重要である。そのプロセスを通り経験する中で、自分の得意分野を発見してほしい。そして、全てを1人でやらずに、得意な人とチームを組む方法もある。」と述べられた。これは、以前私が特別講義で話した主旨と同等であり、共感を抱いた。続けて、建築を考えるプロセスの実務化の例として、パーンムサイ（注2）の子供たちが書いた多くの絵の活用と那覇の老生化したビジネスホテルのリニューアルとを組み合わせたプロジェクトの紹介をされた。2年生にとっては具体的でわかりやすい例だったと思う。

講義の最後は、当日前講義・講師であり、同期の遠藤克彦氏との座談会となった。現在の建築設計に対する想いや子どもを学生に熱く披露された。(記：露木博視)
注1) 受賞歴
公共建築賞（国土交通大臣表彰）、こども環境学会賞・中部建築賞
グッドデザイン賞・JCDデザイン賞（日本商環境設計家協会）金賞・
キッズデザイン賞優秀賞・日本建築学会作品選集掲載 他多数
注2) パーンムサイ
HVに母子感染した孤児たちの生活施設



## 女流ファイル Part14

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

# 國正珠緒

(H01 卒)



**KUNIMASA Tamao**  
1989年 武蔵工業大学建築学科卒業  
(広瀬研究室)  
1989-1990年 環境デザイン研究所 在籍  
1990-1994年 丹青社 在籍  
1995-2005年 パルグリーン 在籍  
(途中レーベンスアーキテクト  
在籍中住宅設計)  
2005年 悠庵一級建築士事務所 設立  
2015年 アトリエ悠庵 設立

私は、2007年に森ビル(株)に新卒入社し、用地取得や不動産の売買を担う部署を経て、現在、再開発事業を推進する開発の部署にいます。現在担当するプロジェクトは、銀座の中央通りに位置する銀座六丁目10地区第一種市街地再開発事業です。この再開発事業では、2街区一体での敷地に、商業、事務所、文化・交流施設等の複合用途の建物を計画しています。再開発事業におけるディベロッパーの役割は様々ですが、銀座プロジェクトにおける森ビルは、再開発組合の事務局や再開発コーディネーター等として、事業を組み立て推進するとともに、事業費を負担して再開発建物の床を取得する投資家の一員としての役割を担っています。私は約6年半、この銀座プロジェクトの担当として、事業の推進を担ってきました。具体的に担当してきた業務としては、事業スキーム・事業計画の立案、権利者の意向調整、行政許可手続き、事業採算の検討等です。ディベロッパーは、建物所有者かつ将来の建物の運営・管理者としての立場を持つため、事業計画や施設計画の決定にあたっては、建築的な観点だけでなく、事業性や建物の運営・管理等の様々な視点で検討、意思決定を行います。また再開発事業では、地権者の生活



エレガントな住宅に調和させた外構

「家と家を繋ぐ仕事をしたい」と個人住宅のエクステリアの会社に就職したのは30歳を目前にしたころでした。それまでは博物館のまわりの公園の基本設計の仕事をしていたので、外構の仕事で似たようなものだろうと思って入ったのですが、スピード感もデザインの考え方もまったく違う世界でした。

瞬発力が試される世界でしたが、数をやるうちにコツがつかめるとともに、奥深さも。

ハウスメーカーで家を建てられる方が今でも大多数だと思いますが、不思議なまでに外構のことはおいてきぼり。予算配分もデザインもとにかくつこみどころ満載でした。

仕事は「自分がやりたいこと」と「世間がやってほしいこと」の需要と供給のバランスが良いのが一番良いのですが、とにかくこの世界はまだまだ未開拓だと思いました。いまから二十余年前のことです。他社とひと味違った提案をして価格競争の土俵にのらない。というのが勤めていた会社の社長の口癖だったので、まあ鍛えられました。そして10年たって独立してからは「素材」と「ゾーニング」の両方から「奇抜という意味ではなく、他でやっていないこと」に目をつけて提案をしてきました。

この誌面に書くのはおこがましいとは思いますが…。  
・エクステリア(門構えやアプローチの部分)は住宅の見た目を大きく左右します。  
・ガーデン(芝生やデッキなどがある庭の部分)は生活の質を大きくかえます。

再建を図りながら、土地の高度利用による都市再生・社会貢献という重要な役割を担います。これらの要件や諸条件等を鑑みながら、事業計画を立てる必要があります。学生の頃は、都市開発の仕事は面白そう、街づくりに係る仕事がしたいと漠然と思っていましたが、実際に再開発事業に携わる中で、その難しさや責任の重さを実感しました。ある権利者の方からは「先祖から譲り受けた土地を大切に守っていく使命がある」と言われました。その権利者の土地は、再開発事業により新しい再開発建物に置き換えることとなります。それぞれの権利者に、その街や土地・建物への想い入れがあり、それをより魅力的なものに変えてくれるという期待感で、再開発事業に参加します。権利者以外にも地元の方々や設計者、施工者、コンサルタントなど、再開発事業には多くの人が携わっており、ディベロッパーはその想いや期待を背負い事業を推進していきます。その再開発事業の推進を担う責任は重いですが、それだけやりがいのある仕事だと思っています。現在、銀座プロジェクトは、2017年の竣工、開業に向けて工事を進めています。私も引き続き事業の推進に邁進したいと思っています。(森ビル)



屋外用の合皮をつかったソファ

今年の始めこの二点をより具体的に説明した「品格のあるエクステリアのための100リスト」なる小冊子を作りました。(以下一部抜粋)

「35. 玄関ポーチはウエルカムテラスと考えよ。最低でも椅子一つ置ける広さとするべし。門から始まった「もてなし」の集大成の場と意識せよ。

59. 庭のやすらぎに大切なものは「ゆらぎ」。ゆらぎの三大要素は水、風、炎。形のない3要素をどう演出するかがデザイナーの腕のみせどころ。

80. 屋外用の照明はデザインに魅力的なものが少ない。植栽の影に隠す。壁の裏側から照らす。など光源の見えない工夫をし「夜の顔」の演出をせよ。」などやや偉そうですが。(笑) 初対面の方に名刺代わりにお渡ししているのですが、かなりの分量なのに結構みなさん読んで感想を言ってくださいます。四半世紀以上前、受験生のときに五月晴れの空をバックに見た「赤坂プリンスホテル新館」に爽やかな感動を覚えたのが建築学科を受験したきっかけでしたが、それから紆余曲折あって、ずいぶんちがう分野の仕事をしています。本当に楽しいですね。まっさらな配置図の中にためのホルダーでエクステリアのゾーニングをしていくとき心が震えるほどワクワクします。こんな時代にこんな思いで向き合える仕事をみつけられた私は幸せなのだと思っています。この幸せを出逢うお客様に連鎖させないといけません。一人でも多く連鎖できますように。幸せの連鎖が成功した写真を2点載せさせていただきます。(アトリエ悠庵)

## ■file-73 都市創りに携わって

# 神田春奈

(H19 卒)



**KANDA Haruna**  
2007年 武蔵工業大学建築学科卒業(天野研究室)  
2007年 森ビル 勤務

私は今、小さな設計事務所で働いています。設計が本業になりますが、業務の線引きをせず、それ以外の事にも積極的に関わり、空間や場づくりをおこなっています。

例えば、店舗物件では内装設計のみならず、プライスカードやメニュー表のデザイン、商品陳列やディスプレイ、スタッフのユニフォームなど運営に関わるモノのデザインもおこなっています。住宅やお店などを新築・改装をしたいと思われる理由は様々です。その想い、要望を整理し、今までとこれからの暮らし方、お店のあり方など時間をかけてクライアントと話し合い、一緒に考えていながら提案をしていきます。[つくる][考える]ということに携わってもらい、出来る限りクライアントに主体性を持たせてながら物事を決めていきます。多くの議論を重ね、自分たちで考えてきた事が形になったという意識が、空間への愛着、大切に想う気持ちへと繋がっているように思



公営住宅パース

手塚研究室卒業後、NTTファシリティーズに入社しました。入社5年目までは本社勤務で、大学キャンパス構想から大学施設の新築に携っていました。教室・研究室・食堂・体育館・ホールの複合したかなり巨大な大学施設で、基本計画から実施設計を行い大きなプロジェクトをどう成功に導いていくか、お客様目線の提案を行うことでよりよい計画にブラッシュアップされ、設計者とお客様との信頼関係の構築につながることを学びました。入社6年目から東北支店へ異動となり、震災復興地域への提案や、災害公営住宅の監理を担当しました。メインで担当していたのは岩手県の陸前高田市という地域です。ここは震災津波で、まちが、本当に跡形もなくなってしまう地域です。海岸エリアは10~20mの造成を行い2年で景色がすっかり変わっていきました。造成(土を盛っただけ)インフラや上屋はまだまだこれから

います。以前設計した店舗では、運営や売場に関わる方々の知識や経験を基に、一緒に一から商品の陳列の仕方を検討し、購買方法、オペレーションの仕方を新しく開発しました。それによって新しい什器(家具)のあり方も生まれ、他のお店でも同じ什器や方法が取り入れられています。オープンして6年程経ちますが、今でも変わらず大事なお店を扱ってくれています。デザインやつくり方の共有が出来ているので、新たな商品に対する陳列の仕方や、追加で必要となった什器の選定などはスタッフの方々で考えて、お店の雰囲気を整えながら判断し、時にはデザインルールを応用してお店づくりを続けてくれています。新築でも改装でも同様ですが、完成後に物件の引き渡しが終わると手を離れていきます。でもそれは私達のひと区切りというだけで、そこからが空間にとっての始まりです。どのように暮らし、利用し、管理し、手入れをされていくかで寿命が大

きく異なっていきます。いい建物・空間であるためには、空間や場を大事に想う気持ちをもたれ続ける事が必要だと思います。社会や住み手・運営者が変わったとしても、それまで使っていた人達がどれだけ大切にしてきたかという気持ちが空間に現れ、受け継ぐ人達にもその想いが伝わります。素材の使い方や無理のない納まりといった技術的・物理的な部分を考えることも空間を長生きさせるためにはとても重要ですが、完成後の空間の生き方を考え、余白や自由度の高い設計、そして想いを共有するという事もとても大切だと改めて感じています。

建築の「つくり方」「携わり方」「やり方」は沢山あります。誰かのために、社会のために、少しでも長くそこに存在し大切にされ続けるモノをつくるため、私なりの想いを形にして建築に携わっていきたいと思います。(日吉坂事務所)

## ■file-74 携わり方について考えたこと

# 太田温子

(H18 卒)



**Ota Atsuko**  
2006年 武蔵工業大学建築学科卒業(手塚研究室)  
2008年 武蔵工業大学大学院修了(小林研究室)  
ハウスメーカー勤務後、  
2010年 日吉坂事務所 勤務

# 深澤悠美

(H20 卒)

■file-75 設計の経験を活かし、新しい分野への挑戦



**FUKASAWA Yumi**  
2008年 武蔵工業大学建築学科卒業(手塚研究室)  
2010年 武蔵工業大学大学院修了(手塚研究室)  
2010年 NTTファシリティーズ本社入社  
都市建築デザイン部建築担当  
2014年 NTTファシリティーズ東北支店  
建築・FM事業部建築担当  
2016年 NTTファシリティーズ中央  
グリーンITビルビジネス本部建築担当

です。担当した公営住宅は山を切り崩した(その土は造成に利用)高台の敷地で、300世帯の大規模な住宅です。公園を隣接して計画し、緑があり、コミュニティが生まれるようなひとつの街区を計画しました。7月末から入居が開始し、人の流れができ、地域の活性化につながればいいなと思っています。

震災地域へ実際に訪れ、復興で変わっていく姿を体感できたのは、自分にとって大きな経験となりました。

この7月から本社へ戻り、今は建築の企画側の仕事をしています。

IoTや弊社のIT技術を強みにした建築施策の提案に注力しています。これからも、設計の観点から新しい技術と融合した建築提案をしていきます。(NTTファシリティーズ)

# 社会をデザインする先駆者が語る／PART-4

## インタビュー：「新しい価値観を見すえた建築家のありかた」

### 中田裕一氏 + 中田理恵氏／中田製作所の挑戦

如学会・青年委員会

建築とは「社会をデザインする」こと。本特集では、多様なアプローチで活躍する中堅・若手の卒業生をご紹介します。今回は、中田製作所の中田裕一さん（H18卒）と中田理恵（H18卒）さんに話して頂きました。

## 「妄想から打ち上げまで」

中田製作所の中田裕一・理恵夫妻は共に、大学時代は意匠系の手塚貴晴研究室に所属し、卒業設計やデザインコンペで賞を取ってきた。その彼らが今の設計業界の分業制に違和感を感じ、作っていく過程に踏み込んだ関わり方を自ら選んだ。そこで生まれたのが「Handihouse Project」。それは「設計も施工も出来る限り住み手と一緒にやる」というコンセプトである。「一緒にやる」というのは施主が単に現場を何度も見学するといったものではなく、文字通り住み手となる人が Handihouse メンバーと共にデザイン立案から解体、施工も共同で行うということだ。そこで生まれた合言葉が「妄想から打ち上げまで」だった。施主と共にアイデアを妄想し、共に試行錯誤をしながら施主と現場で体を動かし、打ち上げで喜びを分かち合うところまで行動を共にする。ただ綺麗なものをつくる以上に、様々な事を共有することで生まれるストーリーに価値を見出す住み手が増えてきたということであろう。このプロジェクトは東京建築士会「第1回・これからの建築士賞」を受賞している。また中田夫妻が結婚を機に海の家「Seaside Living」を自ら作るようになった。まず自分たちの結婚式を Seaside Living で企画したのだが、その後も毎夏その海の家を企画運営している。Seaside Living は 2013 年の SD レビューに入選をはたしている。これらのように大きな意味での作る過程を共有し、建築を作り上げているのが中田製作所である。2016 年、海水浴でにぎわう夏の Seaside Living にてお二人から話を伺った。

#### 「自分から出てこないデザインをどう生かすか」

裕一「大学の設計授業の中の、与えられた敷地の中で設計してプランを立てて模型を作るという作業だけでは満足できなくなり、もっとモノに近い環境を求めて卒業後に施工会社へ就職しました。佐藤秀というゼネコンですが、創設者で建築家の佐藤秀三が『自分で考えたものは自分たちで作っていくんだ』という意志で、建築家が施工会社を始めたようです。それがとてもカッコよく感じました。佐藤秀ではいくつかの現場で働いたのですが、その中でリノベーションの現場を受け持ったことがあり、その体験に可能性を感じました。ゼロから作り出す新築と違ってリノベーションは古い建物を直して使います。古い建物自体がもっているポテンシャルを読み取り、生かしていくことが強く求められます。『自分から出てこないデザインをどう生かしていくか』という事に強い興味が湧きました。それは住み手の意見を聞き取り入れて作ることで、自分だけで考えるデザインを超えられると感じたことにもつながります。この過程や思考が中田製作所の立ち上げに大きく影響しました。」

#### 「作家性を越えた普遍性がカッコイイを越える」

理恵「彼は作家性にまったく興味がありません。」裕一「カッコイイとか良いモノとはなんなんだろうと思った時に、作家性ではないと思ったんです。極論で言うと住む人が良いと思うことが良いことなんだという普遍性に関わる部分が大切だと思うんです。だからお客さんに出来るだけ参加してもらおうようにするし、良い空間とはどういうのかも考えてもらいます。主体性を持ったお客さんの目標を手助けするのが自分の仕事です。お客さんには積極的に家づくりにも参戦してもらいます。だから自分は『ボード運んで！』『へこたれたら完成しませんよ！』と声をかけるんです。(笑) ある意味では究極の家づくりです。だからお客さんはとても喜んで参加します。竣工後のクレームもほとんどありません。」

## 日々実験のようなことを

#### 「設計+施工+企画+運営」

裕一「住宅以外では、飲食または店舗関連のプロジェクトは Handihouse Project とは親和性がありますね。シェフも店をいっしょに作ることでその行為自体が広告になり、そのままや周辺住民とオープン前から馴染むことができます。」理恵「もっとパブリックなプロジェクトもやって行きたいと思っています。パブリックというのは行政が絡む公共サービスという意味ではなく、人や社会と繋がった公共空間を使ったプロジェクトという意味です。」裕一「Handihouse のメンバー、加藤溪一（H18 卒）の担当で、世田谷区の松陰神社前駅のそばで築 50 年以上経った木造アパートをリノベーションして店舗・カフェ・ギャラリー・アトリエ・街の案内所などが入った『松陰 PLAT』という地域や社会と繋がる場を作りました。一緒に作ることで街に浸透化していける、根ざしていけるのではないかと実感しました。」

理恵「中田製作所が立ち上げられた時は、私はまだ日建設計で設計の仕事をしていました。担当プロジェクトもあり、それが完成するのを待って加わりました。」裕一「彼女が参加して変わったことは、企画プロデュースをする発想が生まれたことです。自分は設計をして施工もする。彼女は企画を立てて設計する。お互いに共通点を持ちながら、それぞれ得意分野を生かすことで仕事の幅が生まれました。自分たちで事業を立ち上げて運営もする。その成果がこの Seaside Living です。自分で事業展開ができると自分で仕事を作ることができるという事になり、日々実験のようなことをして過ごしている感じです。」理恵「Seaside Living では飲食の運営にも取り組んでいますが、さらに年に 1 組だけの結婚式を企画し続けていきたいと思っています。この場で結婚する 2 人の思いを海を家のデザインにも反映させて変化をもたらしていく。その 2 人の家をその式場（海の家）の材料を転用して作り上げていけばストーリーを繋げていけるし、さらに親から子へと引き継いで大切にされていくのではないかと。」



Seaside Living

## SNS でオープンな情報公開

#### 「ファンをつくる」

裕一「自分たちがおこなっている情報発信というのは、現場の流れやお客さんと取り組んでいる風景を SNS で全て流すという、非常にオープンな情報公開を徹底していることです。僕らの所にくるお客さんたちは、皆そのネット上のページを見てこういう風にやるんだというのを既に勉強してから来るので、戸惑いなどはないようです。」理恵「楽しそうだねと言ってやって来るお客さんたちが多いです。」裕一「僕たちのやっていることに共感してくる人たちが多いです。このような取り組みに対しての『ファン』をどれだけ作れるのかが大切だと思っています。」理恵「Seaside Living も 4 年目になって、固定の常連さんが出てきました。私たちは普通の宣伝をするのではなく、バズマーケティング（ロコミマーケティング）を重視して広がっていけるようにしています。」裕一「ロコミにさせるためには、お客さんに建築をつくることにどんどん参加させて、その家をより愛してもらい、まわりの人に自慢できるものにしてもらうことです。そうすることで、数年経ってもその人らしさが残るような家造りになります。また SNS は施主に認知してもらうだけでなく、自分たちと施主のコミュニケーションとしての意味合いも強くあります。プロジェクトごとに Facebook の特設ページを立ち上げて、そこに打合せ内容や現場報告をその都度書き込んでいくと、そのタイムラインが議事録となり、定例打合せ兼ねたコミュニケーションに発展する。楽しみながらも必要な機能やコミュニケーションは満たされていきます。後から見返しても楽しい議事録が Facebook 上で完成します。」



Handihouse project の仲間たち

# 中田裕一・理恵

H18 卒

中田製作所



中田裕一 1983 年栃木県生まれ。2006 年武蔵工業大学卒業（手塚研究室）。株式会社佐藤秀を経て中田製作所を 2010 年に設立。2011 年に Handihouse Project 始動。2006 年卒業設計にて蔵田賞、「卒業設計日本一決定戦」第一位を受賞。

中田理恵 1983 年神奈川県生まれ。2006 年武蔵工業大学卒業（手塚研究室）。2008 年首都大学大学院修士課程修了。日建設計を経て 2013 年より中田製作所共同主宰。2011 年に Seven Seaside Stories / 環境デザインコンペ第一位、2013 年に阿蘇熊本空港国内線ターミナルビル（日建設計）でくまもと県景観賞／くまもとアートポリス推進賞受賞。

中田製作所 2013 年に Seaside Living で「SD レビュー」入選。2015 年に Handihouse Project で「これからの建築士賞」受賞。



施主と共につくる

#### インタビューを終えての感想

これからの時代に対して新しい適応をされている 2 人だと感じた。設計・施工・企画・運営という境界を安々と飛び越えながらも、彼らの本質の部分が「ものづくり」と「住まい手への愛情」がベースとなったブレのない考え方は非常に好感が持てた。話を聞き進めていくと、建築への関わりが分業だからとか統括的だからとかという問題以前に、住み手にとってどのような体制が取れているかが大切だと説いているように感じた。建築界の「あったらいいながある！」ということをもっと提案しているようだった。住み手第一の対応は一見受身で泥臭く見えるかもしれないが、時代に適応しやすいもっとも高度な手法なのではないかと思わせたりもする。この時代の先駆けとなるであろう中田製作所の取り組みについていつい期待してみよう。

中田理恵さんは、今夏「特別講義」3 日目の特別講師として講義した。（本誌 18P 参照）

聞き手：青年委員会  
栗田祥弘（H10 卒）  
三好敬晴（H10 卒）  
杉本拓海（H11 卒）  
曾根卓也（H26 卒）

# 如学会 2016 年度 定期総会・講演会・懇親会報告

2016年6月4日[土] 会場：渋谷エクセルホテル東急 副会長・総務副委員長 小林 秀憲 (S57 卒)

## 1. 2016 年度定期総会

如学会定期総会は、例年にならない渋谷エクセルホテル東急にて開催された。丹羽副会長より開会の辞が述べられ、山岡嘉彌会長の挨拶に続き、議事が執り行われた。第1号議案は、小林秀憲副会長より発議され、「2015 年度事業報告」が承認された。その後、第2号議案として露木博視財務委員長より「2015 年度収支決算報告」がなされ、小辻武監事が同会計監査報告を行い承認された。第3号議案「2016 年度事業計画」、第4号議案「2016 年度収支予算」についても承認された。第5号議案「会則の改正」発議のうち、如学会組織図において新たに設けられた「総務局」の下に各委員会(総務局傘下となる総務・財務・会員委員会を除く)が位置づけられていることに対して、常任委員会のもと総務局と各委員会は並列ではないかとの意見があったが、総務局が各委員会の活動内容を把握する必要により、それを反映した組織体制になっている旨を説明し、承認を得た。

## 2. 講演会

東京都議会議長で、「東京オリンピック・パラリンピックを成功させる都議会議員連盟」会長である川井しげお氏(土木・S46 卒)による「東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けて」と題した講演会が、舟岡努副会長の司会により行われた。講演では、少子高齢化問題、首都直下型地震問題、東京と地方のより深い連携構築など都政にとっての重要問題より話が始められた。そして、東京の更なる発展のために2020年オリンピックを通じ、2040年の東京をつくることを目標と定め、1964年オリンピック開催が、インフラ建設をはじめとして今日の東京の礎となっているように、2020年以降の東京の姿を見据えなければならない。オリンピック開催の一次的効果として、幅広いスポーツの場の提供がある。学生・障害者をはじめとし、スポーツによる社会的な効果・影響は計り知れない。さらに国際的なイベントを開催することにより、世界的な都市間競争力が強化される。ロンドンにとって、オリンピック開催が都市間競争に大きく貢献している。ロンドン、ニューヨーク、パリ、シンガポールなどの「世界都市」の中で、アジアの一位を維持しなければならない。海外からの来訪者は、2030年には、現在の倍の4,000万人に達するが、パリは現在でも7,000万人に達しており、まだまだ、増えていく可能性がある。そのためには、魅力的な街を作っていくことが肝心である。先駆けてラグビーW杯が開催されるが、オリンピックとは異なった客層や長いゲーム間隔などにより、新たな発展のチャンスとなる可能性がある。オリンピックは、東京発展の最後のチャンスである。オリンピックの恒久施設は、レガシーとなるように、キチンとしたものにしなければならないし、合わせて都市基盤の強化を行わなければならない。慢性的な鉄道の混雑の緩和、東京圏におけるJR・私鉄の都市鉄道の再構築、羽田空港の交通アクセスの改善、リニア新幹線との接続などを具体化していく。最後に、建物を作っていく職能のわれわれに対して、「人々が、興味がわくような建物を作ってほしい。」と激励の言葉を託された。

## 3. 懇親会

懇親会は、小林秀憲副会長、川端彩乃事業委員の司会進行により執り行われた。山岡会長より、総会に先駆けて行われた二子玉川キャンパスでの大学主催「隈研吾氏講演会」の開催、総会後に行われた「川井しげお都議会議長講演会」の開催、そして本懇親会など盛り沢山の催しとなっていることを報告。最初に来賓としてお招きした学長代理である東京都市大学教授・工学部長の皆川勝様、校友会副会長の原口兼正様、建築学科主任教授の勝又英明様よりご挨拶の言葉を頂いた。そして如学会元会長の畑和男様のご発声により一同乾杯し、幕を開けた。しばらくの歓談の後、後日最終講義をされる濱本卓司・元教授、日本建築学会賞を受賞された岩下剛教授ほか、堀場弘教授、岡山理香准教授、福島加津也各先生よりお話を頂いた。更には特別会員である校友会より元理事長の副島信治様と関博様、大島弘之様からお言葉を頂き、賛助会員の建築資料研究社の方々を紹介した。学生如学会代表者に奨励金を支給した。



定期総会



東京都議会議長・川井しげお氏の講演



会場での如学会活動のパネル展示



建築学科教員らの紹介



懇親会



在学生も多数参加

## 会費・支援費納入のお願い

如学会で催される様々な事業は会員の皆様の会費で賄われています。今年度も多数の会員の皆様から会費・支援費の納入を賜りました。誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

平成20年度から導入された会費4年分10,000円という割引制度が、郵便局への為替振込の簡便さもあって、4年分一括納入の会員の方が増えています。ただし年度毎に振り込む習慣がなくなるので、会費切れの会員データシートの会費欄、会費納入者リストをご確認頂き、会費切れの方は会費納入の程、よろしくお願ひします。また4年前に導入された支援費制度も定着してきて、毎年多数のOBの皆様からご支援頂いております。支援費につきましては、年度毎に会員の皆様の篤志を仰ぐ制度となっております。既に4年分の会費をお納めの皆様も、支援費のご協力についてよろしくお願ひいたします。(同封の「会費・支援費納入者リスト」参照)

会費：3,000円(1年分) / 10,000円(4年分・割引)  
支援費：5,000円/1口

納入頂ける方は必ず内訳をご記入の上、振込頂くようお願いいたします。如学会NEWSに同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No.00160-0-174206 如学会

## 2017 年度定期総会・講演会・懇親会のご案内

来年、2017年度の定期総会を開催します。本年同様、「同窓会」として位置づけており、同期の旧友などお誘い合わせの上、多数のOB、OGの参集を期待しております。

期 日 **2017.06.03 [土]**  
会 場 **渋谷エクセルホテル東急**

詳細は「如学会NEWS」2017年春号に掲載します。

# 如学会 2015 年度収支決算及び2016 年度予算案

2015年度決算：2015/4/1～2016/3/31 2016年度予算：2016/4/1～2017/3/31

【一般会計】

(単位=円)

| 収入の部       | 科目 | 平成27年度決算             |           |           | 平成28年度予算  |                                  |
|------------|----|----------------------|-----------|-----------|-----------|----------------------------------|
|            |    | 平成27年4月1日～平成28年3月31日 | 予算        | 実績        | 対予算       | 予算                               |
| 会員会費       |    | 1,760,000            | 1,701,000 | -59,000   | 1,760,000 | 120人×3,000(1年分)+140人×10,000(4年分) |
| 支援費        |    | 520,000              | 460,950   | -59,050   | 500,000   |                                  |
| 総会         |    | 700,000              | 506,000   | -194,000  | 560,000   | 80人×7,000                        |
| 常任理事会      |    | 200,000              | 60,000    | -140,000  | 100,000   | 懇親会:20人×5,000×1回                 |
| 理事会        |    | 350,000              | 175,000   | -175,000  | 350,000   | 懇親会:70人×5,000                    |
| 100人展      |    | 2,050,000            | 1,486,000 | -564,000  | 1,465,000 | 出展料95点×7,000、協賛費80万              |
| スキルアップ特別講義 |    | 20,000               | 0         | -20,000   | 20,000    | 新規事業:参加費5名×1,000×4回              |
| 見学会        |    | 0                    | 2,383,770 | 2,383,770 | 60,000    | 20名×1,000円/人×3回                  |
|            |    | 0                    | 17,500    | 17,500    |           |                                  |
| 校友会支援費     |    | 635,000              | 1,025,000 | 390,000   | 1,100,000 |                                  |
| その他        |    | 100,000              | 301,767   | 201,767   | 0         | 広告収入は無し                          |
| 収入合計       |    | 6,335,000            | 8,116,987 | 1,781,987 | 5,915,000 |                                  |

| 支出の部       | 科目                  | 予算        | 実績         | 対予算        | 予算                         | 備考                                      |
|------------|---------------------|-----------|------------|------------|----------------------------|---|
| NEWS       | 制作費 春               | 400,000   | 384,480    | 15,520     | 800,000                    | 3,000部 送料 封筒代含む                         |
|            | 制作費 秋               | 400,000   | 386,180    | 13,820     |                            |   |
|            | 発送費 春               | 200,000   | 204,049    | -4,049     | 400,000                    | 3,000部 送料 封筒代含む                         |
|            | 発送費 秋               | 200,000   | 197,211    | 2,789      |                            |   |
|            | 取材費                 | 70,000    | 1,000      | 69,000     | 38,000                     | 「若手・中堅OG/OBの発掘・・・」3,200円×2回×2(春秋)を含む    |
| NEWS計      |                     | 1,270,000 | 1,172,920  | 97,080     | 1,238,000                  |   |
| 会員管理費      | 印刷関係                | 150,000   | 162,128    | -12,128    | 170,000                    |   |
|            | 会員管理費計              | 150,000   | 162,128    | -12,128    | 170,000                    |   |
| 会議費        | 総会                  | 858,000   | 735,774    | 122,226    | 810,000                    | 会場費:71万(学生参加費含む)、印刷費:3万、パネル運搬費:7万       |
|            | 常任理事会               | 300,000   | 149,838    | 150,162    | 150,000                    | 貸室料、コピー代                                |
|            | 委員会                 | 350,000   | 194,587    | 155,413    | 350,000                    | 懇親会:70人×5,000                           |
|            | 職域理事会               | 40,000    | 64,255     | -24,255    | 80,000                     |   |
|            | 会議費計                | 1,548,000 | 1,144,454  | 403,546    | 1,390,000                  |   |
| 主催事業       | トーク                 | 10,000    | 0          | 10,000     |                            |   |
|            | 100人展(大学展+上野の森美術館展) | 1,650,000 | 1,919,098  | -269,098   | 1,465,000                  | 会場費34万円、展示用品費34.5万、懇親会費他                |
|            | 特別講座                | 150,000   | 152,326    | -2,326     | 250,000                    | ホームページ作成費(2年に分けて支払い)                    |
|            | 進路ガイダンス             | 200,000   | 292,242    | -92,242    | 150,000                    | 交通費15名×5,000、懇親会:75,000                 |
|            | 見学会                 | 0         | 2,382,230  | -2,382,230 | 300,000                    | 昨年実績:企業72社、学生参加101名、文具代、懇親会20,000円/回×3回 |
|            |                     | 0         | 17,120     | -17,120    | 60,000                     |   |
|            | ワークショップ(青年委員会)      | 150,000   | 138,080    | 11,920     | 378,000                    | 久之浜被災地復興支援                              |
| スキルアップ特別講義 | 32,800              | 21,800    | 11,000     | 43,000     | 会議室3,200円×4回、講師交通費4名×5,000 |   |
| 主催事業計      | 2,192,800           | 4,922,896 | -2,730,096 | 2,646,000  |                            |   |
| 学生関係       | 助成金                 | 90,000    | 90,000     | 0          | 90,000                     | 学園祭時に3研究会へ、赤レンガ卒業設計展                    |
|            | 蔵田賞他                | 140,000   | 108,000    | 32,000     | 110,000                    | 蔵田賞、如学会賞                                |
| 学生関係計      | 230,000             | 198,000   | 32,000     | 200,000    |                            |   |
| 管理費        | 事務員                 | 135,000   | 62,000     | 73,000     | 0                          |   |
|            | アルバイト               | 100,000   | 0          | 100,000    | 0                          |   |
|            | 人件費計                | 235,000   | 62,000     | 173,000    | 0                          |   |
|            | 慶弔費                 | 100,000   | 92,400     | 7,600      | 100,000                    |   |
|            | 交通費                 | 50,000    | 16,700     | 33,300     | 20,000                     |   |
|            | 通信費                 | 20,000    | 1,675      | 18,325     | 2,000                      |   |
|            | 事務用品                | 50,000    | 53,732     | -3,732     | 50,000                     |   |
|            | 支払手数料               | 50,000    | 27,330     | 22,670     | 30,000                     |   |
|            | 荷造運賃                |           | 1,960      | -1,960     | 5,000                      |   |
|            | 支部出張費               | 30,000    | 0          | 30,000     |                            |   |
|            | 予備費                 | 100,000   | 130,470    | -30,470    | 50,000                     |   |
|            | 管理費計                | 400,000   | 324,267    | 75,733     | 257,000                    |   |
|            | 支出合計                | 6,025,800 | 7,986,665  | -1,960,865 | 5,901,000                  |   |

【収支】

| 科目        | 予算        | 実績        | 対予算        | 予算        |
|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| 収入合計      | 6,335,000 | 8,116,987 | 1,781,987  | 5,915,000 |
| 支出合計      | 6,025,800 | 7,986,665 | -1,960,865 | 5,901,000 |
| 収入合計-支出合計 | 309,200   | 130,322   | 178,878    | 14,000    |

【財産目録(一般会計)】

| 項目         | 期首           | 期末         |
|------------|--------------|------------|
| 預金口座       |              |            |
| 郵便局(定期)    | 7,356,000    | 6,856,000  |
| 郵便局(通常)    | 0            | 500,602    |
| 郵便振替口座     | 157,020      | 1,371,790  |
| 三井住友銀行(普通) | 759,543      | 526,440    |
| みずほ銀行      | 2,254,243    | 2,304,326  |
| 口座計        | ① 10,526,806 | 11,559,158 |
| 現金         | ② 26,537     | 49,434     |
| 未収入金       | ③ 0          | 460,000    |
| 前払い費用      | ④ 0          | 76,237     |
| 未払い金       | ⑤ 0          | 4,385,664  |

|                           |            |
|---------------------------|------------|
| 前年度繰越額※                   | 10,553,343 |
| 一般会計収支                    | 130,322    |
| 「建築100人展2015 10周年記念誌発行」損益 | 2,924,500  |
| 次年度繰越額※                   | 7,759,165  |

※繰越額=①+②+③+④-⑤(財産目録(一般会計)参照)

如学会の今年度後半の主な行事は下記の通りです。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

## 東京都市大学「建築100人展2016」/大学展+上野浅草展

### 編集後記

2016.10.29 [土] - 10.30 [日]

**大学展** 10:00-18:00 入場無料

会場：建築学科 1階 グランドギャラリー

■OB、OGによる「100人展」以外に、在校生の3研究会による「上野・浅草」研究の発表、及び2年生課題発表などがあります。

2016.12.01 [木] - 12.12 [月]

**上野浅草展** 9:00-20:00 入場無料

会場：浅草文化観光センター  
隅田公園リバーサイドギャラリー

■台東区のご後援のもと、隈研吾氏設計による浅草文化観光センターの7階展示ギャラリーで展示します。

■隅田公園リバーサイドギャラリーは全長100メートルの長大な展示空間。展示のバリエーションと量は圧巻です。



隅田公園リバーサイドギャラリー



浅草文化観光センター  
(写真：新建築2012年5月号)  
本文 P14-15 参照

東京都市大学  
建築学科



卒業生100人の活動を集めました。

主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会  
協賛：東京都市大学建築学科  
東京都市大学・校友会  
後援：台東区

## 建築100人展 2016

大学展 2016.10.29 ▶ 10.30 | 上野浅草展 12.01 ▶ 12.12

東京都市大学 東京都市大学 世田谷キャンパス 建築学科 浅草文化観光センター 東京都台東区墨田2-18-9 7階展示スペース  
〒112-8557 東京都台東区五反田1-1-1 アパルトメント棟5階501号室 浅草文化観光センター 浅草文化観光センター 浅草文化観光センター 浅草文化観光センター  
お問い合わせ：03-5790-8082 受付時間：10:00-18:00 (土日祝)  
ホームページ：http://www.jogakkai.jp/100  
お問い合わせ：03-5790-8082 受付時間：10:00-18:00 (土日祝)  
ホームページ：http://www.jogakkai.jp/100

熊本地震。前震と本震とが連続したことがない地震でした。熊本在住の方に電話で安否の確認しました。(メルマガで報告)一部を除いてご本人と連絡がとれましたが、地震の経験がなく、余震の続く状況に不安を抱かれておりました。

電気の復旧の早さ比べ、水の確保に苦労されていました。井戸があつて水に不自由されなかった方もいらっしゃいましたが、2時間待ちで水がもらえなかったり、学校のプールの水をトイレ用にもらいに行くなど、水の豊富な熊本で経験したことのない事でした。熊本県が想定していた災害は台風による水害・土砂崩れが一番と行政の対応も良くありませんでした。

宅急便の復旧に併せて被災の方に救援物資を送りました。今回、校友会と現地の方から情報を補い連絡しました。如学会の会員名簿にない方や情報が更新されていないのに気づかれました。如学会HPのリニューアルで会員本人で名簿を更新出来る様に致します。2度と起きて欲しくない状況に、より迅速に対応したいと思います。

丹羽 謙治

各事業の申し込み  
問い合わせ先  
総務委員長  
丹羽 謙治

TEL:03-5790-8082

FAX:03-5790-0654

E-mail

jogakkai.info@gmail.com

発行人

山岡 嘉彌

情報委員長・編集長

丹羽 謙治

編集顧問

松成 和夫

編集委員

酒井 孝博

勝又 英明

山口 裕照

鈴木 浩

エディトリアルデザイン

山岡 嘉彌

制作

鈴木 浩

奥山 美緒

制作・印刷

株式会社 はやと企画

発行

東京都市大学建築学科如学会  
東京都世田谷区玉堤 1-28-1  
〒158-8557

発行日

2016年10月1日

## 進路ガイダンス2016

2016.11.23 [水・祝] 13:00-19:00

場所・東京都市大学 世田谷キャンパス

- 第1部 事業別仕事紹介 13:00-15:45  
会場：5号館1階「小講堂」  
OB・OGの講師の方々から専門領域の概略をお話いただけます。
- 第2部 企業別仕事紹介 16:00-17:30  
会場：建築学科棟1階「グランドギャラリー」  
OB・OGの方々と直接お話をさせていただきます。
- 第3部 懇親会 17:30-19:00  
会場：1号館4階「ラウンジ・オーク」  
立食形式の懇親会で、参加無料です。自由にご参加下さい。

## 会費・支援費納入のお願い

是非とも旧友、先輩、後輩にご連絡いただき、会費納入の促進にご協力いただけるようにお願いします。そして、積極的に如学会活動にご参加下さい。仕事にキャリアにも多くのメリットがあります。

会費：3,000円(1年分) / 10,000円(4年分・割引料金)  
支援費：5,000円/一口

納入頂ける方は必ず「内訳」をご記入の上、振込頂くようお願い致します。如学会NEWSに同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No. 00160-0-174206 如学会

郵便振込以外の方法を紹介(詳しくは如学会HP)

## 定期総会・講演会・懇親会

2017.06.03 [土] 15:30-20:00

- 15:30 ●定期総会 ●渋谷エクセルホテル東急
- 16:30 ●休憩
- 16:45 ●講演会 (講演者：未定)
- 17:45 ●休憩
- 18:00 ●懇親会
- 20:00

※詳細はメールマガジンで追ってお知らせします。HPもご覧ください。

## 新ホームページのご案内

10月1日より如学会ホームページをリニューアル致しました。

- URL: jogakkai.jp
- リニューアルポイント
- 1. ホーム画面・メニューを一新しました。
- 2. 「お知らせ」、「如学会メールマガジン」を過去分も含め、ホームページから見ることができます。
- 3. 「会員サービス」を新設し、登録住所及び会費・支援費の納入状況の確認を自分でできます。

詳しい内容は、2016年10月3日(月)発行のメールマガジンをお読みください。